

特44

493

明治十六年十一月發兌

西村九郎右衛門編輯

改悔文集說

京都書林 西村空華堂版

017521-000-4

特44-493

改悔文集說

占部 觀順/著

M16. 11

ABF-0306



改悔文集說

權大講義占部觀頌述

某甲筆記

情々軌遊世ノ宗意ヲ論談スル景況ヲ按スルニ改悔文ノ阿
 彌陀如来ニ并佛名佛体ノ諍ヒ都鄙ノ間ニ羈々多ク依テ今
 般公等予ニ其決着ヲ請フ予ハ固ヨリ改悔文略解ノ如ク尊
 號ヲ標スルノ決着ナリ然レトモ名体不離ノ尊號ナルコトハ亡
 論ナリ今將其論之彼願生歸命者ハ阿彌陀如来トハ佛体
 ト定メ下ノタスケ玉ヘテ度我救我ノ欲生願生ト心得畫水ノ佛
 像ニ向テタスケ玉ヘト願求スト云儀式佛意是ハ其謬顯著サレハ別
 ニ破斥スルニ及ハス次ニ或義云阿彌陀如来トハ畫水ノ佛像

ニ非シテ盡十方无身光如来ノ眞實報身ノ佛躰ナリ下ノタ
スケ玉ヘハ請求ニシテ直ニ報身佛ニ向テ請求スト云是ハ
先年美濃國ニ名號ヲタノム歟佛躰ヲタノム歟ノ諍論アリ
其際ニ此説ヲ主張シタ人カアリシト聞ケリ今既故人此義ノ據ハ
眞佛土卷六要鈔七初葉云上來四卷約能歸機自教至證然
後宜知所歸身土文此文ニ依テ立ル所歸ハ眞佛土卷ナリ
能歸ハ前四卷ナリ此中ニ教ハ行ニ攝リ證ハ信ニ収ル中間ノ
行信ノ二ハ行ノ謂レヲ聞テ信スル信ノ二ニ収ル依テ行卷ノタ
ノムモノヲ助ルノ名號ノ謂レヲ聞テ眞佛土ノ佛体ニ向フテ
タスケ玉ヘト請求スル則名號ヲ聞テ佛躰ヲタノム所歸所

詳云六要鈔
一左目然往
生後所見身
去此指
ニ於テ未
々真佛土卷
ハ信卷所對
ノ仏ヲ明ス
ニ非ス往生
ノ後所見ノ
身土ヲ明ス
ナリト云
トヲ知ヘシ

信ハ眞佛土卷能歸ハ信卷ト云意ナリ今云大ニ六要鈔ヲ
誤解セリ先此説ノ如クナラハ疑難許多ナレトモ今五難ヲ提
出ス一ニ廣本ハ能歸所歸備ルト雖モ略本ハ眞佛土ヲ明サ
ルカ故ニ所歸所信ヲ欠ク能所不具足ノ書トナルヘシニ能
信ハ第十八願ニシテ所信ハ十二二十三ノ願トスルトキハ忽ニ
願成就ノ聞其名號ノ經文ニ背ニ非ヤ三ニ六要鈔ノ釋意ヲ誤
ル行卷六要鈔二七葉對映スレハ今家機法能所ノ常談ハ
十七十八ニ願相對ニ限ル略シテハ二字四字ヲ以テ具ニハ六字
々々ヲ以行信能所ヲ談スル若十二二十三ノ佛体ト第十八願
ノ信心ヲ以能所ヲ語ルトキハ西山ノ生佛不二濫シテ本宗ノ

意ニ背ク四三行卷ノ名號ヲ聞テ眞佛土ノ佛体ヲ多クムト云
ハ、名號ハ魚ヲ得ル筈ノ如ク捨テタノマスト云ヤ、已ニ本願多
ムト云ヒ、念佛ヲフカクタノミテトモ云ヘルニ非ヤ、五ニ本宗ハ
信体ハ所聞ノ名號ニシテ名號念持ヲ正因トスル若所信
ヲ佛体ト限ルトキハ憶想ノ佛体ヲ以眞因トスルヤ以上ノ五難
思ヘシ今私ニハ香月院圓乘院兩師ノ指南ノ如ク阿彌陀
如○來○ト○八○尊○號○ヲ○標○ス○ト○決○着○ス○是○ハ○六○要○鈔○三○葉○若○云○歸
命以下一行二句先舉壽命光明尊號爲歸命体ト云之ヲ以
知ヘシ問尊號ト云ハ、則佛体ヲ簡ヒ佛体ト云ハ、則名號ヲ
簡フ、何レモ一邊ヲ舉テ一邊ヲ攝セザレハ共ニ失アルニ似タリ

如何答佛体ト云トキハ名號ヲ簡ナレトモ、仏体ノ言常ニ用ユハカテ
スト先哲ノ誠ヲレタリ尊
號佛名ト云トキハ佛体ヲ遮セス固ヨリ名体不離ノ名號ナルカ
故ニ更ニ邊ヲ舉ルノ失ナシ、若名號ト標シテ失アリト云ハ、
經ニ聞其名號ト説モ亦佛体ヲ攝セサル失アリト云テ佳ナラン
歟願成就一寶圓滿ノ眞教タル眞宗ハ聞其名號ノ外ナシ、斯
以我祖大師ハ玄簡ノ三願的證終南ノ就人就行立信ノ指南
ニ依テ、教行信證トイヘル一段ノ名目ヲ立テ、一宗ノ規模ト
シテ此宗ヲ開キ玉ヘリ、故ニ御文ニ帖目第七通、夕、モロノノ雜
行ヲステ、正行ニ歸スルヲ以テ本意トス、三帖目第四通、サレ
ハ南無阿彌陀佛トマウス六字ノ体ハイカナルコ、ロソトイフニ阿

彌陀如來ヲ一向ニタノメハ佛ケソノ衆生ヲヨクシロシメシテ救
 ヒタマヘル御スカタラ此南無阿彌陀佛ニアラハシ玉フナリトオモフ
 ヘキナリ、四帖目通阿彌陀佛ノ昔シ法藏比丘タリシトキ乃
 至イマノ南無阿彌陀佛ナリ然レハ當流ハ佛体ノ徳ヲ名ノ
 上ニ示シテ攝化利生シ玉フ其故ハ今日ノ我等直ニ報
 身ノ佛体ヲ拜スルト能ハスタ、名號ヲ聞ヨリ外ナシ名號
 ヲ聞トキハ佛体ハ拜セストモ自ラ佛体ニ向フ、故ニ眞要鈔
 本初云一向ト云ハヒトツニムカフトイフタ、念仏ノ一行ニムカヘ
 トナリトノ玉ヘリ經論ノ上ヲ指南モナク直接ニ拜ムトキハ
 成就ノ文ノ間其名号トハ明ニ名號所信ナレトモ、淨土論

帖外文明十
 三年十一月
 十四日御文
 云名號二
 ノ正覺ヲト
 ナハシメス
 へ佛体モ名
 号モハキ名
 号ノ功徳ヲ
 具足スルニ
 ナ下分クシ
 シ知テ在
 生スレリノ
 云佛正覺
 外衆生在
 生モナク
 行モナク
 成シタマ
 トシリキ名
 念仏衆生ト

ニ歸命盡十方无専光如來トアルトキハ直ニ佛体ニ歸命ス
 ニ似タリ然レトモ經論相違アルヘキ理ナシ依テ此淨土論ヲ
 註論ヘ移シテ窺トキハ論註下業无専光如來ヲ釋シテ如
 彼如來光明智相ト云是ハ体ナリ次ニ如彼名義トハ名ナリ
 此名義ニ相應スル者ハ三不二反對スル三信心ナリ而シテ
 破闍滿願ハ體ノ上ニテ語ラスシテ名號中ニ於テ語玉フ是
 眞土ノ徳ヲ名ニ攝シテ示シ玉フ依テ二信心ノ信ハ佛体
 ヲ直ニ信スルトハ云ヘカラス、名義ヲ信スル信心ナリ、是ヲ指
 テ建言我一心ト云然レハ願成就ノ聞名信喜ト論ノ一心
 歸命ト、秋毫モ異ルコトナシ、聞名ノ名タルヤ體ヲ離レス、歸

イシノ信心
ヨトハニテラ
ハニノ南無阿
彌陀佛ナリ

命ノ命タルヤ佛ノ勅命ナリ念仏ヲタムハ即佛ヲタムナリ
勅命ニ順フハ即佛ニ歸スルナリ心ニ二尊ノ勅命ヲ念持ス
ルトコロニ目ニハ拜セストモ攝取ジテ捨玉ハサル阿彌陀如來
ト明瞭ニ佛体ヲタムハ是本願ノ彌陀ナリ彌陀ノ本願ナリ
本願アルユヘニ諸佛ニ選テ彌陀一佛ト貴フ其貴キ本願
ハ彌陀ノ本願ナリ離レトストモ離ルヘキニ非ス然レハ名號
ト限ルヘカラス佛体ト限ルヘカラス名体不離ノ佛名ヲ標スル
聞其名號信心歡喜ノ宗規ト心得ヘシ兔角安心ハ一文執
スルコト勿レ一文執スル故ニ異解異執トナル今先御文ノ上
ニ御勸ノ御言ニ且ク一准ナラサルコトヲ心得ヘシ今五三ヲ提示

セハ一ニ阿彌陀佛後生タスケ玉ヘトタノメト勸ル五帖目第九通
歸命ト云ハ衆生ノモロクノ難行ヲステ、阿彌陀佛後生タス
ケ玉ヘト一向ニタノミタテマツルヘシト此外一帖目第七帖目二同
第五帖目第一第三第四第六第九第十一等ナリ、二三彌陀ニ歸セヨト勸メ玉
フ二帖目第一フカク如來ニ歸入スルコ、ロヲモツヘシ同第三專修專
念一向一心ニ彌陀ニ歸命スルヲモテ本願ヲ信樂スル体トス同
第四同第八三帖目第七四帖目第五五帖目第十同第五等ナリ、二三聞開
ケト勸メ玉フ一帖目第四イマノコトハリヲ聞開キテ往生治定ト
オモヒ定ル位ヲ一念發起平生業成等一帖目第五三帖目
第六等ナリ、四三六字ノ謂レヲ心得ワケヨト勸メ玉フ、二帖目

第十南無阿彌陀佛ノ六ノ字ヲ心得ワケタルカスナハチ他力
五 信心ノ体ナリニ帖目第二第四帖目 第六第八等ナリ五ニ彌陀
ヲ信セヨト勸メ玉フニ帖目第二彌陀ヲ一心一向ニ信樂シテ二
タコ、ロノナキ人ヲ等同第四三帖目 第三彌陀ヲヨク信スルコ、日
タニモ一ニ定レハ等六ニ不思議ノ本願ト信セヨト勸メ玉フ、二
帖目第十彌陀如來ノ不思議ノ本願カナリトフカク信シ奉
リテ少シモ疑心ナケレハ必ス彌陀ハ攝取シ玉フヘシ、ニ帖目
十 佛等ナリ、此外本願タノム或ハ悲願ニスカリテ等トアレト
モ今ハ其五ニヲ舉ル、如是一准ナラサルニ似タレトモ意ハ全
ク一ナリ、是ヲ偏ナク黨ナク心得ヘシ、彼佛体所信ノ請求ヲ

慕ル者ハ第一ノ後生タスケ玉ヘテ无子ハ安心ニナラヌト云
依テ心得タル分齊聞分タ而已ニテハ一念歸命ニハ非ト云、是
大ナル誤リナリ、元來所歸ヲ佛体ト限ル原因ハ能歸ノタスケ玉
ヘヲ請求ト慕リタノムヲ欲願ト誤ルヨリ起ル、大論ノ四依ノ如ク
依法不依人、依義不依語四依全文近化卷御引用會本六要鈔九之三十七葉
可披大論九之十六葉大乘義章十一之十五葉以下
具釋義ヲ以語ヲ定ムヘシ語ニ依テ義ヲ定ルトキハ失アリ、今モタスケ玉
ヘノ語ヲ卒爾ニ聞トキハ祈願請求ト聞做スタノムノ語モ亦爾リ、
俗間通用ハミナ願フコト、スレハナリ、都テ假名ハ縱容ニシテ其意
味多義ヲ存スルアリ、先哲モ叢林集十之
五初葉假名聖教ヲカロシメアチ
トルコト甚タ爾ルベカラス、大事ノ故事ヲ傳ルニハミナ假名カキ

トス假名ハ日本ノ實ナリ漢語ニ改ムヘカラスト和論語ノ序ニ見
 多リ然ニ當今ノ人假名書ハ淺シ拙シ口ナ惜シナントトテ漢
 語ニカキナラシタルモノ多シ其意味ヲ消シ尤モ作者ノ素意
 ヲ損スト申サレタリ宗祖大師中興大師ハ易ク之ヲ愚痴
 无智ノ者ニ知セル爲タムト教タテ玉ヘトモ聞者我偏
 僻ヨリ種々ノ謬解ヲ生ス故ニ古來此タスケ玉ヘニ付テハ學
 者苦心セサルハナシ之ニ依テ今四依ノ論說ノ如ク依義不依
 語トタスケ玉ヘモタノムモ先ニ義ヲ定メテ後ニ語ヲ解スヘシ抑
 タスケ玉ヘトタノム義原ハ本願ノ三心ヲ合シタル信樂願成
 就ノ信心ナリ又六字釋テハ南无歸命ナリ其信樂トハ信

卷云言信樂者信者即是真也實也等又云真知疑蓋无
 間雜故是名信樂文又唯信文意初信ハウタカフコロナキナリ
 スナハチ眞實信心ナリ一多證文業信心ハ如來ノ御チカヒヲキ
 ハテウタカフコロノナキナリト次ニ南无歸命ノ釋ハ南无ノ翻
 名數多シトモ本宗ニ於テハ歸命ノ一翻ニ限ル度我救我
 護我驚怖等ノ翻名ハ決テ御用ヒナシ其歸命ノ翻名モ今
 家ノ義ハ起信義記ノ第二義ニ當ル歸是敬順義命謂諸
 佛教命ニシテスナハチ行卷六字釋ニ歸言至也又歸悅也又
 歸稅也命言葉也招也等是以歸命者本願招喚之勅命
 也ト銘文本業歸命トマフスハ如來ノ勅命ニシタカヒタマツル

ナリ同末葉初歸命ハスナチ釋迦彌陀ニ尊ノ勅命ニシタカヒメ
 シニカナフトマフスコトハナリ具如別錄如是ナルトキハ本宗ノタスケ玉
 へトタノムト云ハ信歸ノ二字ノコノナリ信ト歸トハ釋名門テ
 ハ且ク異ルニ似タトモ出休門テハ全クナリ信心ハ如來ノ
 御チカヒヲキテ疑フコノナキナリ歸命モ亦ニ尊ノ勅命
 ニ順ヒ召ニ契フコノナレハ他流如キ度我救我ノ祈願ト大
 ニ徑庭アリ強ニ願ヲ遮スルニハ非ス信ハ信樂ト熟シテ欲願愛
 悅ノ願アリ歸命ニ願生安樂國ノ願アリ發願回向ノ願ア
 レハ固ヨリ願ハ元ニ非レトモ請求ノ願ヲ表トシテ所歸ヲ佛
 体ト限ルハ決テ宗ノ本意ニ非ス今具ニ是ヲ辨セントス彼

大智度論ノ法ノ四依ノ如ク依法不依人ト然レトモ惡則忘其善
 愛則忘其惡ノ風情ニシテ當今諍論ノ際ニ人ニ依テ之ヲ惡
 メハ善義モ邪義ト見做シ又人ニ依テ之ヲ愛スレハ惡義モ善義
 ト認定スル時節ナレハ今ハ先哲ノ講辨ヲ其儘陳述ス各々腕
 カヲ振テ之ヲ記セ

○香月院講師改悔文タスケ玉ヘノ下講辨 坊間現行校正
 本一心ニ阿彌陀如來乃至タニ申テ候ト云安心ハ聞其名號
 信心歡喜南无阿彌陀佛ノ六字ノキ、閑カレ選擇ノ願心ヨリ
 引起サレテ助玉ヘノ一念ノ起タコトナリトキニ後生御タスケ
 候ヘトタニ申シテ候ト是ハ御文ニ常ニアル所ノ歸命ノ義

ナリ歸命ト云ハ後生タスケ玉ヘト彌陀ヲタノムコトナリト仰セ
レタ夫ナレハ此改悔文ニハ後生タスケ玉ヘトタノ三申シテ候
ト云ハ歸命ノ二字ノ意ナリコレハ近年講堂ノ玄義分ニ辨シ
タコトエタスケ玉ヘトタノムト云言カ歸命ノ二字ノコトナリ是
ハ和讚ノ御左訓行卷ノ歸命ノ御字訓明ナリタノムト云カ歸
ノ字ノ心ナリソコテ後生ヲタスケ玉ヘト云カ命ノ字ノ心ニ當
ルナリ命ノ字ニ後生タスケ玉ヘノ義カアルテハセ、タノムト云カ
歸ノ字ノ心ニソコテタスケタマヘト云カ命ノ字ニ當ルナリナ
セト云ニ我祖ノ尊號銘文ノ御釋ニ歸命ト云ハ如來ノ御
勅命ニシテソレニ順ヒ奉ル心ナリトアルコレハ西鎮兩家ニコ

古部我祖
勅命順
ト仰セラ
ルト蓮
ノタスケ
ヘノ言ト同
事ト見做セ
ト指南
客ヲカク肝
ニ銘セヨ

トナリ今家歸命ノ御釋ナリ、如來ノ勅命ニ順フト云義ナリ、
我祖ノ歸命ノ御釋ト蓮如上人ノ歸命ノ御釋ト釋躰コソ違
フケレトモ御意カ違フテハスマヌナリ、然ルニ御文ニ歸命ト云ハ
タスケ玉ヘトタノム心ト仰セラレノカ意ハ我祖ノ尊號銘文ノ如
來ノ御勅命ニ順フナリト仰セラレト同事ナリ、ナセト云ニ如
來ノ勅命ハ我ヲタノムモノヲタスケフトアル勅命ナレハ、イカ
程深キ罪ナリトモ我ヲ一心ニタノマン衆生ヲタスケルトアル勅
命ソノ勅命カ行者ノ胸ニ響キアラレテタスケ玉ヘノ心カ起
タナリ、三業意業ノタノ三募リノ一類テハ人間ドフシカ物ヲ
タノムヤフニ金ヲ貸シテクダサレト云喻ヤ、道具ヲ貸シテク

多クレト云喻ヲ出シテ行者ノ方カラ思ヒクワダテ、タスケ玉
ヘトタノムコトノヤウニ執スルノハ恐クハ御文ノ心テハナヒ改悔
丈ニハ如來ヲ先キ舉テ阿彌陀如來ノ勅命ノ如ク仰セラ
レケルヤウハトノ玉フ、阿彌陀如來ノ仰セラレケルヤウハト、銘文
ノ御釋ニ勅命ニシタガヒ召ニカナクト仰セラレタ如來ノ仰ナ
リ罪ハイカホド深クトモ我ヲ一心ニタノマン衆生ヲタスケル
ソトアルカ如來ノ仰ナリ如來ノ勅命ナリ其タスケ玉フトア
ル勅命ニ順ヒ奉ル心ヲヤニ依テ、タスケ玉ヘトオモフコト、仰
セラレタ、カク伺ハ子ハ歸命ノ二字ノコロニハナラヌ、御開山
ノ歸命ノ御釋ト違フコトニナルナリ、然レハ今度ノ後生タス

古部云佛名
ヲ奉ルハ淨
土論以來ノ
格式トハ實
ニ確言ナリ
談師ノ二門
偈ノ録、佛
蓋十方不可
思議光如來
ノ解ニ不可
思議光如來
トハ佛名ヲ
舉ルト云又
末代无智ノ
御文ノ録ニ
モ阿彌陀仏
ヲカクタテ
ミテラセテ
阿彌陀仏ト
ハ同ク仏名

ケ玉ヘトタノムト申シテ候トアルカ歸命ノ二字ノコロナリ、初二
阿彌陀如來我等カ今度ノ一大事ト云迄ハ此後生タスケ
玉ヘトタノムトコロヘ収テシマフナリ、ナセト云ニ初二阿彌陀如
來ト標シタハ、タノ三奉ル所歸ノ阿彌陀如來ヲ標シタノナリ、
唯タノ三奉ルト云テハイカナル佛ヲタノムヤラ知レヌナリ、御和
讚ニモ盡十方、无尋光佛ト云所歸ノ佛名ヲ舉ルト云カ淨
土論以來ノ格式ナリ、然レハ初ハ阿彌陀如來ト云名ヲ標シ
タハタスケ玉ヘトタノム佛名ヲ舉タノナリ、已上

○香月院講師改悔文阿彌陀如來ノ下講辨寫本在所々
阿彌陀如來我等カ今度等阿彌陀如來ト標シ舉タハ即

ヲ舉ルト辨
モリ詠師
録常ニ如足

標山名三意

淨土論テハ盡十方无尋光如來トアルニ當ル是所歸ノ佛
名ヲ標シ舉ルトキニ心ト云ヨリ直ニ我等カ今度ノ一大
事ノ後生ト仰ラレテモ聞ヘルニ何ノ爲ニ中間ニ所歸ノ佛名
ヲ標シ舉テ阿彌陀如來ト云五字ヲ置セ玉フヤト云ニ今
私ニ案スルニ是ニ三意ヲ含メリ、一爲示歸命一心故、二爲標
聞名信心故、三爲顯異解改悔故、初二爲示歸命一心故ハ
是ハ如來ノ仰ニ順フ一念ノ事ヲ歸命ノ一念ト云今我等カ
今度ノ一大事ノ後生御タスケ候ヘトタノ三申テ候トハ歸命
ノ一念ノ相タチヤ此後生タスケ玉ヘトタノム一念ハ如來ノ仰
セニ順フ一念ト云コトヲ示シ爲ニ阿彌陀如來ト云佛名ヲ

標シ玉フ其如來ノ仰ニ順フトハ四帖目ニ阿彌陀如來ノ仰セ
ラレケルヤウハ乃至仰セラレタリト然レハタスケ玉ヘトタノム
一念ハ行者ノ方ヨリ思ヒナラヘタル類テハナヒ、本ト如來ノ方
ヨリ我ヲ一心ニタノマン衆生ヲハタスクヘシト仰セノ勅命カア
ルソノ勅命カ眞受ニナリテサテハカ、ルモノモタスケ玉フ御佛
ハ阿彌陀如來ハカリト、勅命ニ順フカタノム一念ノ相ト云コ
トテ佛名ヲ標シ玉フナリ、二爲標聞名信心故トハ聞其名
號信心歡喜テ、一念ノ信心ハモト名號ノ謂レヲ聞開タル
領解ト云コトテ佛名ヲ標シ玉フナリ、御文ニ信心獲得スト
云ハ第十八ノ願ヲ心得ナリ此願ヲ心得ト云ハ南無阿彌陀

佛ノスカタヲ心得ナリト、信心ヲウルト云ハ別ノコトテハナヒ名號ノ謂レヲ聞開タカ、即信心ナリ、御正忌ノ御文ニ南無阿彌陀佛ノ六ノ字ノ心ヲヨクシリタルヲモテ信心決定ストハ云ナリ、抑信心ノ体ト云ハ經ニ云聞其名號信心歡喜トイヘリ善導ノ云南無ト云ハ乃至信心ヲトルトハイフナリト、是名號ノ謂レヲ聞開タカ信心ト云コトテ佛名ヲ標シ玉フ、問若然ハ南無阿彌陀佛ト六字ヲ標スヘキニ何故ニ南無ノ二字ヲ省キ玉フヤト云、答是ニ思召アリ、全体タムモノヲ助玉フト云カ名號ノ謂レナレトモ、タノム者ヲト云コトヲオモニ聞トキハタノムヲ募ル、依テ御文ニ南無阿彌陀佛ノ六字ヲ聞開クトモ、

又阿彌陀佛ノタスケ玉ヘル謂レヲ聞開クトモ、自問自答ノ御文ナトニ此御言アレトモ一所トシテ南無ノ謂レヲ聞開クトハノタマハ又然レハタノム者ヲタスケ玉フト云六字ハ其タノム斗リテタスケ玉フト云御タスケヲ聞開クノチヤ、爾ルヲ近來タノミ募リハタノメトアルカラハタノマ子ハナラヌト、タノム所ハカリニ目ヲ付テタノムヲ募ルニ依テ、彌陀ヲタノムトアル趣ヲ知ヌナリ、今此改悔モ名號ノ謂レヲ聞開ク信心チヤト云コトヲ顯シナカラ、而モ亦二字ヲ略シテ標シ玉ヒタハ兼テ其心モアルナリ、ニ爲顯異解改悔故トハ善知識タノミノ異解ノ改悔ヲ顯シカ爲ニ佛名ヲ擧玉フ此義ハ下ニ

至テ改悔ノ相ヲ辨スル所ニテ委ク述ルナリ上來ノ三義ヲ
以阿彌陀如來ト云佛名ヲ解シ終ル然ニ近來ニ業歸
命ノ異解者アリテ此阿彌陀如來ト云ヲ解シテ是ハ向
ヒ奉ル所ノ繪木ノ佛体ヲ呼出シテ阿彌陀如來ト云依
テ此所ハ先身業歸命ヲ顯シ玉フト云即五劫思惟ノ御
文ノ衆生ノ彌陀如來ニ向ヒ奉テト同コトナリト評云此
義甚タ以非ナリ元來身業ヲ以佛ニ向テタノマ子ハナラ
ト云コトハ當流ニハ无コトナリ已ニ彼異解者ノ證據トス
ル此五劫思惟ノ御文ヲ見ヘシ阿彌陀如來ニ向ヒ奉テト
アルヲ畫木像ニ向テタノムコトハスルハ所謂蛇ニ足ヲ畫ク如

ク今御正意ノ眞月ヲ掲テ彼等ノ妄雲ヲ拂ハシ先彼御文
ハ六字ノ謂レヲ講釋シテ南无ノ二字ハ衆生ノ彌陀如來
ニ向ヒ奉テ後生タスケ玉ヘト申ス心ナルヘシカヤウニ彌陀ヲ
タノム人ヲモラサス救ヒ玉フ心コソ阿彌陀佛ノ四字ノ心ニ
テアリケリト思フヘキモノナリ是ニヨリテイカナル十惡等ト
アリテ其六字ノ謂レヲ八行者ノ方へ受タル姿タハ是ニヨリテ
イカナル十惡五逆五障三從ノ女人ナリトモ口ノ雜行
ヲステヒタスラ後生タスケ玉ヘト申サン人ヲハタトハ十人
モアレ百人モアレ三十盡クタスケ玉フヘトノ玉フ是ハ所歸
ノ本願ノ相多ヲ釋スルトコロニ彌陀如來ニ向ヒ奉テトアル

夫ヲ受タル所テハモロクノ雜行ヲステ、ヒタスラニトノ玉フ、
ヒタスラトハ一向ノコトテ、然ハ彌陀如來ニ向ヒ奉テトハ、若
愚ナル者カ形ヲ佛前へ出ルコトヲ思ヒ誤ルカト思召テ、
次ニ直ニヒタスラトノ玉フ、彌陀ニ向フトハ形ヲ佛前ニ出ル
コトテハナヒ、一向ニ弥陀ニスカル思ヒチヤトノ玉フ、然ハ向
フトアルハ一心一向ノ姿ヲ述玉ヘリ、之ニ依テ今此阿弥陀如
來我等カ今度ノ等トアルモ、身業ヲ佛ニ向フトテハ曾
テナキナリ、此下救半省畧御タスケ候ヘトタノ三申シテ候トハ、爰モ
正ク勅命ノ受ラレタタノム一念ノ相タナリ、近來ハ此御
言ニ付テ種々ノ異解アリ、依テ此所ニ煩シキヲ厭ハス委

ク辨スヘシ、先タノ三募ノ者ハ爰ノ御タスケ候ヘトタノムトアル
ヲ、口上ニ出シテタスケ玉ヘト申スト云、口上タノ三、或ハ御タ
スケ候ヘト並ヘ立テ思ヒメクラスコト、云モノアリ、是意業
募、又爰ヲ南无阿彌陀佛ト一聲申ス事ト心得テタノムト
云ハ口稱募別テタノ三募ノ者ハ爰カ得手ノトコロチヤ依テ
此文言ニ片執シテ正意ヲ失フ、或ハ口稱ヲ募ル者ハ言ヲマ
ケテ正義ヲ失フ、是文ヲ執スルト文ヲマケルト互ニ失アリ、此
所ヲ辨スルニ初ニタノムト云言ヲ辨シ、次ニ後生御タスケ候
ヘトタノ三申シテ候ト云具サナル言ヲ辨スヘシ、先タノムト
云ハ此言ヲ辨スルニ、二門アリ、一ハ文字ニ付テ訓ヲ定ル

ニハ字訓ニ約シテ相ヲ辨ス初二文字ニ付テ訓ヲ定ルトハ
 タノムト云文字ニ付テ今彌陀ヲタノムト云言ハ憑頼特怙
 ノ中ニハ何レニ當ルヤト云コトヲ極メテハナラヌ此門ヲ辨スル
 ニ又ニ三分レテ初ニ古説ヲ舉次ニ今説ヲ辨ス初ニ古説トハ
 此彌陀ヲタノムト云文字ヲ尋ルニ古來ノ説ニ憑頼ノ二字
 ヲタノムト訓スルトアル成程二字トモニタノムト云文字十
 レトモ今彌陀ヲタノムト云タノム言ニハ疎キナリ其ユヘハ頼
 ノ字ヲ以彌陀ヲタノムト遣フタル所ハ御相承ニ一ヶ所モナキ
 ナリ又憑ノ字ハ行卷信卷モ遣フテアル其外禮讚ナトニモ
 出テアル字ナレトモ當流テ彌陀ヲタノムト云訓ハ憑ノ字

テハナヒ又一説ニ欲願ノ二字ヲ以タノムト訓ス辨命甚非ナリ
 己カニ業歸命ノ安心ヨリ出タコトテ彌陀ヲタノムトハタ
 スケ玉ヘト此方カラ願ヒカケテ行ク事ト思ヒ願トタノムト
 同一ニスル又同歸命辨ニ南无歸命ノ言ヲタノムト訓スルト
 是モ南无歸命ハ欲願ノ義カアルカラ歸命ノ二字ヲタノ
 ムト訓スルト云是亦非ナリ成程御文テ見ト歸命ノ二字ヲ
 タノムトナサレタヤウナレトモ左ニ非ス内外ニ互リテ歸命ノ
 二字ヲタノムト訓シタルコト一ヶ所モナヒ是自身ノ安心此
 タノム訓釋テ直ニ知ルナリ歸命辨ハタノムニ思テスカルト
 コロテハナヒレカト後生タスケ玉ヘト願込ニタルテ无レハナラ

又ト云カラ起レリ是祖門ノ罪人ナリ。偕一義ニハ是ハ信心ノ
信ノ字ヲタノムト訓ス。本願決ナリ。戰國策ナトヲ引テ。万葉ナ
トヨリタノムハ信ノ字ノ和訓トスル。是又自分ノ安心カラ持
出ス。義ナリ。本願決ハ意業募チヤニヨリテ。進テハ歸命辨ノ
欲願ノタノミヲ破シ。退テハ信スルトタノムトヲ雜テ信セヨク
トアル。御教化ヲ、ミナタノメクト云事ニシテシマフ。夫ナレハ
心テタスケ玉ヘト思フタテ无レハナラヌト云モ。是モト出体釋
名ヲ知ヌヘナリ。出体門カラ云ヘハ信ストタノムトハ一ナリ。本
願ヲ信スルト云。信心カ即彌陀ヲタノム一念ノトキナリ。然トモ
釋名門テ云トキハ信スルト云ハ疑ハレテ眞受ニスル事。タノム

ト云ハスカリ任スコトナリ。然ハ信ノ字ヲ直ニタノムトノ玉フヘ
キヤウナシ。体ハ共ニツコトナレトモ。其タノム訓ハ信ノ字テ
ハナキナリ。此古説ノ中テタノムト云ハ憑頼ノ二字ヲ訓スル
ト云義ハタノマス方ヨリ出タ事ナリ。又欲願ノ二字ヲタノム
ヲタノムト云ハ是モタノマス方ヨリ出タ事ナリ。意業募ノ
申スコトナリ。タノマス方ノ者モタノムトアルハ信スルコトチャ
ニ依テタノムニハ及ヌ。信スルテヨヒト申スナリ。次ニ今説ヲ辨
ストハ當流ノ正意ハタノメクトアルタノムノ訓ハ歸命ノ歸
ノ字ヲタノムト訓スル。是カ祖師以來御相承ノ釋テ先

行卷ニ帰命ノ釋ニ帰悅帰稅ノ二義アリ、其御左訓ニヨリ
タノムヨリカ、ルトアル、又行卷偈前文ノ論註ノ忠臣之歸
君后之歸ノ字ニヨリタノムトアリ、讚テハ一切道俗歸敬ニキ
ノ歸ノ字、皆正歸邪マサルニトアル歸ノ字ノ左訓ニタノムト
アリ、御草稿和讚ノ大心カヲ歸命セヨノ歸ノ字ニモタノム
トアリ、然ハ歸ノ字ヲタノムトハ、祖師以來ノ御相承ナリ、夫テ
御文ニ帰命ハタスケ玉ヘトタノム心ナリト云トノ玉フ、然トモ信
スルト云ハタノム意トモ願フ意トモナキナリ、コレ當流ニオヒテ
彌陀ヲタノムタノムニハ歸ノ字ニシテ本願ノ勅命ニ帰スルヲ彌
陀ヲタノムトモ帰命ストモ云、人間同土物ヲタノムコトキノタノ

タノム
三義

ミカケルタノミテハナヒ、本願ノ勅命ニヨリタノム斗リテタスケン
ト呼カケ玉フ勅命ニ順テ、疑ハレテ打任スルタノミ心ナリ、然ハ
文字テ云ヘハタノムハ歸ノ字ト心得ヘシ、次ニ惣シテ字訓ニ
約シテ相ヲ辨セハ是ハタノムト云訓ノ上テ其相タノ味ヲ辨
ス、今タノムト云和訓ノ出タイカント云ニ、凡ソタノムト云和
訓ニ三義アリ、一ハタノミチカラニスルコトヲタノムト云、病ハ藥
ヲタノム、小兒ハ母ヲタノム、老人ハ杖ヲタノムナト皆タノミチカ
ラニスル事ナリ、其タノミチカラニスルコトヲタノムト和訓シタ
ハイカント云ニ、元來米ノ事ヲ田ノ實ト云、菓子ノ事ナリ、
水ノ實ト云如ク田ヨリアカル實チヤニ由テ米ノコトヲ田ノ

實ト云、故ニ八月朔日ヲ田實ノ朔日ト云テ田實ノ出來ア
カル朔日チヤニ依テ田實ノ朔日ト云、タノム朔日トモ云、一切
ノタノミニナルハ米程タノミニナリチカラニナルモノハナヒ、依テ
夫ヨリ一切ノタノミニナル物ヲタノミト訓シチカラニナル物ヲ
タノミト訓ヲ付ル夫ヲマニムモノノ通音テタノミヲタノムト
呼來ルナリ、ニヨリカ、リスカリ任ス事ヲタノムト云我方
ニ仕様カナヒニ依テ向ニ任スヲタノムト云、此時ハタノムト云
和訓ハ他ヲ身ニスルト云略語テ他人ノ身ヲ我身ニスルト
云コト、自身ハ渡ルコトナラヌ川ヲ川越ヲタノミ川越ヲ我
身トシテ渡ルト云如キヲ云、其他人ノ身ヲ我身トスルハ向

ノ方ヘ打任セヨリカ、ル故チヤ、夫ヨリスヘテ寄スカリ寄カ
リリマカセルヲタノムト云、櫓モカイモ我トハ取シ法ノ舟
タ、舟入ニ任セテソユク、三ニ乞ヒ求メ願ヒ求ル事ヲタノ
ムト云、世間テカフシテ下サレト乞ヒ求ルヲタノムト云、是
ハ本義テハナヒ正ク本義ハ初ノ二義ニアリ、タノムト云
訓ニ乞ヒ求ルト云義ハアタリマヘ无キ義ナリ、又チカラ
ニシテタノミマカセルハ川ヲ越ニモ道ヲ行ニモ、必ス用事
アルニ依テチカラニシタノミニシテ我身ヲ向ニ任セルナリ、
タノミチカラニシテタノム内ニハ川ヲ越ルトキナレハ此川ヲ
渡シテ下サレト云乞ヒ求メ願ヒ求ル義ハ具テアリ、然ハ

如ノムノ本義ハ初ノ二義ニシテ後ノ一義ハツノ初ノ二義
ニ付テマハルトコロノ傍義ナリ、今時ハタノムトサヘ云ヘハ第
三義カ重ノヤウニ思フ、依テ此方カラタスケ玉ヘト願ヒ
立ラスルコト、思ナリ、元来タスカラレヌ身カタスカル上聞
テミレハ、サテハ大願業カテタスカル事トスカリ任セル思
ヒカ彌陀ヲタスム一念ナリ、ソノタスカリ任セルハ何コトソ
助リタヤト云用事モアルニ依テタノ三ニシチカラニシテ
任スルナレハ、其所ニ助テ下サレト云義ハ自ラ具テアル
ナリ、○タノムト云ニ付テニ義アル事上ニ辨シ終、其三
義ノ中テ當流テ彌陀ヲタノムタノ三ハ何レニ當ルツト云

ニ本ト今家ノタノムト仰セラルコトハ、蓮師ノ初テ仰セ
ラレタル事テハナヒ、依テ御一代聞書云聖人ノ御流ハタ
ノム一念ノトコロ肝要ナリ等ト、タノムト云コトハ代々仰セ
ラレタコトチヤ、先祖師テ云ヘハ銘文ニ如來ノ至心信樂
ヲフカクタノムヘシト、唯信文意ニ本願他カラタノ三テ、御
消息集ニ念佛ヲフカクタノ三テ、末燈鈔ニ南无阿弥陀
佛トタノマセ玉ヒテ、又云誓願不思議ヲタノ三テ、讚云
本願他カラタノ三ツ、又佛智ノ不思議ヲタノムヘシト、如
是我祖モ常ニタノムト云言ヲ所々ニ舉玉フコレ本ハ元
祖ノ和語燈黒谷傳ナトニ此タノム御言所々ニアルヲ相承

シ玉フ我祖ノ御言ナリ、此外祖師常ニ用玉ヘル唯信鈔後
 生物語ナトニモ此タノムト云御言アリ、今其所ヲ指ハ、唯
 信鈔十七葉左同廿六葉右後世物語十四葉右同十
 五葉右十五葉左一念多念分別事五葉左等ナリ、是
 等カラ相承シ玉フ我祖ノ御言ナリ、サテ正ク當家御
 相承ニ来テハ如信上人歎異鈔ニアリ覺如上人テハ未
 タ見ス法要ニ載テアル所ノ敬白文ニハタノムノ言アリ、サ
 テ常樂臺ニ於テハ所々ニアリ、破邪顯正鈔下四葉女人往
 生聞書十六ツノ外多シ、夫ヨリ善緯巧存ノ四代ノ間ハ
 御選述ノ書現行シテ无故知ストモ、タノム御言ヲ稱シ

古部論近
 諸家著
 意許
 幾三至元

玉ヘル迄ハ治定ナリ、依テ御一代聞書今引タ次ノ文ニ故
 ニタノムト云コトヲハ代々アツハシオカレ候ト、玉ヘリ、借ハ
 代目ニ至テハタノムト云御言雨ノフル如クノ玉フ、如是代々
 タノムト云言ヲ遣ヒ玉フ、蓮師マテハ其意全ク一致ノ思召
 テナケレハナラヌナリ、然ハ世上ニタノミ慕ノ者ハ御文ヤ改
 悔文ノタノムト云言ヲ解フルニ、唯スカリ任ス位ノコトテハ
ナヒ人間仲間テ物タノムヤウニ此方カラタノミカケル事
チヤト云夫テハ一向ニ祖師ノタノムト仰セラル、ノモ覺如
上人ナトノ仰セラルト、御文ノ御勸メトヲ別ニセ子ハナラヌ
祖師ノタノムトノ玉フナトハ願ヒ立スル事テハナヒ、夫ナレハ御

文ノタノムトアルモ人間ニ願ヒ立ラスルコト、同シトハ云ヒ難
 ヒ、然ルヲ一向ニタノミ慕ノ者ハ甚キニ至テハ御文ノタノ
 ムトアルハ、祖師ノ仰セラル、タノミトハ別チヤナト、云者カ
 アル由シ聞及ヘリ、依テ在々所々ニハ、歎異鈔末燈鈔ナトノ
 御聖教ハ、今時ノ人ノ教化ニハ合ハヌヤウニ心得去年ノ古
 曆ノ如シナシ、御文デナクテハナラヌト、祖師ト蓮師ノ御兩師
 ノ間ヲ齟齬ナラシムル事ハ實ニ慷慨限ナシ一宗ノ末徒
 ヨリ左ヤウナルコトヲ云出スニ依テ、高田派ナトヨリハ山
 科安心ナト、毀責ノ名ヲ付ル、是ハ他人惡ニ非ス自流ノ
 人惡キニヨルナリト此御言ニ當レリ、彼等カ云如キハ祖

釋ニ背クコトハ勿論御文ニモ背クナリ、左様云ハトテ口稱募
 ヤウニ頭マカラ祖師ト蓮師ト御教化ヲ一様ニスルハ此又誤ナ
 リ、御文ノタスケ玉ヘトアルハ、ニナ南无阿彌陀佛ト稱ルコ
 トニレテハ御文ノ御正意デハナキナリ、是等ハ三ナ明和
 年中越後御教誠意業口業ヲ取誤ルノモ此所ナリ、下ニ至
 テ辨ス、時ニ夫ナラハ當流ノ彌陀ヲタノムト云コトハ何レシ、
 又上ノタノムノ三義ノ中テハ何レヲ正トスルヤト云ニ先、今
 家ノ本願ヲタノミ、餘陀ヲタノムトアルタノミハ、三義ノ中
 テハ初ノ二重カ重ナリ、ナセナレハ上ニモ云如ク當流テ、餘
 陀ヲタノム言ハ歸命ノ歸ノ字ヲ取テタノムト教玉フ、然ルニ

其歸ノ字ハ敬順ノ義ニシテ、如來ノ勅命ニ順ヒ如來ノ仰
 セノ通りニ順カ歸ノ字ノ心チヤニ依テ、銘文ニ歸命ハ即釋
 迦弥陀ニ尊ノ仰セニ順ヒ召ニカチフト申スナリトノ玉フ、
 此御言カラミレハタノムハ歸命マ々ト云ハ勅命ニ歸スルコ
 トテ、三義ノ中テハチカラニシタノ三ニシテスカルコト任スコ
 トチヤ、ナセナレハ如來ノ勅命ニ順ヒ奉ルト云ハタノムハカ
 リテ助ケントアル如來ノ勅命カ聞開カレ、サテハ三世十方
 ノ諸佛ニ捨ラレタル助ルマニキ私ヲ、此身此儘テ御助ト如
 來ノ勅命ヲチカラニシテトフナリトモト身モ心モ如來ニ
 任セルヲ勅命ニ順フト云、然ハ初ノ二義カ重チヤ、ケレ

トモ其チカラニシタノ三ニシテスカリ任セルトキハ何ソ用事カ
 无ト任セヌ依テスカリ任セル所ノ用事ヲ叶ヘ下サレト云
 所ニ第三義カ具リテアル、今モ如來ノ勅命ニ順ヒ任ルハ何
 ノ爲ソト云ニ助カラレヌ者ヲ助テ下サレト云大ナ用事カ
 アル故ニ其助リカタヒ用事ヲ勅命ニ任ルトキハ必ス助テ下
 サレト云思ハ付テマハル、其助テ下サレト云思ヒテ御文ニ後
 生タスケ玉ヘトタノメト仰セラレタ勅命ニ順ヒ任セル思ヒフリ
 ヲ出シテ見セ玉フナリ、然ハタノムト云言ノ本義ハ初ノ二
 義カ本義テ第三ノ義ハ自ラ具テアルナリ、上來タノムト云
 ニ付テ二門分別文字ニ付テ訓ヲ定メ字訓ニ約シテ相

タスケ玉ヘトタノムト云言ニ二ノ意カアル、一ニ本願ノ

ヲ辨スルニ門終ル。○次ニ後生タスケ玉ヘヲ辨スルニ又ニ門ヲ分ツ、初二正義ヲ辨シ、次ニ異解ヲ破釋ス、初二正義ヲ辨ストハ、後生タスケ玉ヘトタノムハ、一心ニ弥陀ヲタノミヤウヲ教ヘ玉フ、是弥陀ヲタノムハ全ク外ノ事テタノムテハナヒ、助カラレ又後生ノ一大事ヲタノムノチヤト云コトテ、後生御タスケ候ヘトタノミ申テト教ヘ玉フ、夫ヲタノミ募ハ言ニ泥シテ、此方ヨリ助玉ヘトタノム覺ヘカナケレハナラヌト云、又タノミヲ嫌フ者ハ、後生助ケ玉ヘト云言カアル。○
○兩方トモニ此御言ノ意ヲ知ヌカラノ事ナリ、今云後生タスケ玉ヘトタノムト云言ニ二ノ意カアル、一ニ本願ノ

勅命ヲ眞受ニシテタノム相タテ教ヘ玉フ、ニニタスカラレヌ後生ノ一大事ヲ彌陀ニ任セル事ヲ示シタル御言ナリ、先本願ノ勅命ヲ眞受ニシテタノムト云事ヲ顯サハ、一心ニ弥陀ヲタノムトアル御文ハ、論ノ一心歸命ヲ出ス、其歸命ト云ハ上ニ引タル銘文ニ歸命ハスナハチ釋迦彌陀ノ仰ニ順ヒ召ニ叶フトアリテ、命ハ本願ノ勅命、其本願ノ勅命ニ任セ順フヲ歸命ト云トノ玉ヲ祖師ノ御言ナリ、夫ヲ直ニ受テ御文ニ歸命トハ後生タスケ玉ヘトタノム心ト示シ玉フナリ、然ルニ一寸見レハ祖師蓮師ノ御意別ノヤウニ伺ルレトモ、然ラヌナセナレハ此助玉ヘトタノムトハ世上ノタノミ募リノ云ヤウニ

百部五族氏等ノ兩大
師一致ノ辨解ハ前出
ル坊間現行校正未講
述ト同軌ニシテ南大師
經典ヲ盡セリト云ヘシ
情々此指南ヲ以御文ノ
タスケテ六ノ語ヲ撰スル
ニ愈以明ナリタスケテ五
ハト願フアルヘキヲタ
ノムト云セ信スルトノ玉
フ令其文ヲ提テセハ
一帖ニ通タスケテマシモ
下オモフ一念ノ信マコトナ
レハ三帖ニ通後生タス
ケテ五トタコノロチク信
シマイラスル心ヲスナハ
ナ南无トハハウスナリ五
帖四通タスケテ五トカ
ク心ニウタカヒナク信シ
テ此三所ヲ以タスケテ

人カ人ヲタノムヤウニ向フニ合懸セヌ事ヲ此方カラ先ニタ
ノニテ、向ニ合懸サセルタノ三ト、一ツニシタカルケレトモ、
今ハ別テ弥陀ヲタノムハ此方カラタノミカケテ向ノ弥陀ニ
合懸サセルノテハナヒ、向ノ彌陀ノ方ヨリ助テヤラフ
ト呼カケ下サル、勅命チヤニ依テ、サテハト打任セタノ
ムノチヤ、南无ハ願ナリトアルニ依テ助玉ヘト願フ意ト
アルヘキヲタノムト仰セラレタ、行者ノ願カ用ニ立テ
助ルニハナヒ、行者ノ願ツタノテ參ラル、淨土テハナヒ、
唯弥陀ノ御助テマイルノチヤニ依テ、後生タスケント云
迄ハ本願ノ勅命、後生助ケルト云呼聲チヤ、夫ヲ眞

マヘテ心得ヘシ感ニ近
來諸ノ未ニ惑テ存
不離五ノ志ト入念通
スルトヲ解サズ備ニ佛
体請来ヲ慕レリ之ヲ異
義ト云ハサレテ後スル
モ得ヘケンヤ注意セサ
ルカラス

受ニシテ玉ヘト向フヘシ願ヒ任セタルノカ後生タスケ玉ヘノタ
ノ三ナリ、然レハ後生タスケルトアルマテハ向ノ勅命ツレニ玉
ヘト任セルノカ願フナリ、依テ我タノムテハナヒ其如来ノ勅
命ニ順ヒ任セルヲ後生タスク玉ヘトタノムト仰セラレタ、是

テナケレハ兩師一致ノ御教化ニナラヌナリ、是ヲ心得ト銘文ニ歸
命ハ如来ノ勅命ニ順フノチヤト仰セラル、ト御文ニ後生タス
ケニ尊
勅命タマヘト 任セル事
ノ玉フトハ、御言ハ別ナレトモ同シ御意ナリ、
元來三業タノミノヤウニ此方カラ助玉ヘトタノミカケテユクソナ
ラハ祖師ノ御勸カスマヌ、夫斗リテハナヒ御文ノ御勸化モスマヌコ
トニナルナセト云ニ自問自答ノ御文ナトニ彌陀如来ノ本願ノ

我等ヲ助タマフコトハリヲ聞開クカ信心トアレトモ、タノムトハナ
 ヒ又六字ノ謂レヲ聞開キタカ信心ト是等ニハ助タマヘトハナ
 ヒ唯助玉フ勅命ヲ聞開ク斗リカ信心トノ玉フ、タノミ慕ノ者
 ハアノヤウチ御教化ハ物タラヌヤウニ思テ誤ルナリ、上來辨
 スル如ク正意ヲ心得トキハアヲユル御教化カ一致ニ受ラル、
 テ无レハナラヌナリ其味ヒト云ヘハ今ノ自問自答ノ御文
 ナトノ本願ノ謂レヲ聞開クカ信心ト仰セラレタハ助玉フト
 云勅命ヲ眞受ニ受ラレタ所チヤ、又助玉ヘトタノムトアルノ
 ハ其助玉フ勅命ニ順ヒ向フノチヤ、アナタヨリ受ルト此方ヨ
 リ向フトノニアリテ而モ一ナリ、喩ヘハ秤テ物ヲ量ルニ二方

上レハ一方ハ下ル下ルトキカ上ルトキ上ルトキカ下ルトキナリ
 今モ助玉フ本願ソト眞受ニシタル時カ、早タスケ玉ヘトタノ
 マレタルノチヤ、依テ眞受ニスルト任セルトハ一念同時ナリ、
 然ルヲタノミ慕ノ者ハ聞開キタルノミテハ不足聞開タル上
 ニタノマ子ハナラヌト云、夫テハ一念歸命トハナラヌナリ、言
 ハ一寸キ、テ失ナキヤウニ聞ユレトモ心ニ大ニ失アリ彼カ
 如キハ聞開クトタノムトノ二念歸命ナリ、御正意ハ然ラス
 如來ノ方カラ後生助ケテヤロフトアル勅命チヤ、我ヲ心
 ニタノマン衆生ヲハタスケン吃度タスケルト云勅命ニハ夫ヲ聞
 テサテハ御タスケノ本願ト眞受ニナリテ見ハ後生ノ一大事

ハ其マ、助玉ヲト打任セテ安堵スル、是聞開ト打任ルトハ念
同時ナリ、ニ後生助タマヘトタノムハ助カラヌ後生ヲ弥陀ニ
任ス事ヲ顯ス、我身ヲフリ返リ見ハ、タスカル縁ナキ此身カ、
誠ニ此度ヨクハ永却ノ一大事チヤ、然レトモ助テハ外ニハナヒ
ニ依テ、御文ニイツレノ法ヲ信ストイフトモ、後生ノタスカルト云
コトユメクアルヘカラストノ玉ヲ、然ニ一大事ノ後生ヲ彌陀
一佛ニ限テ必スタスケルトアル、其本願ノ謂レカ聞開レテミレハ、
外ニ後生ノ遺場ハナヒ、依テ弥陀ニスカリ任セル、夫ヲ後生タ
スケ玉ヘトタノメトノ玉ヲ此味ヲ知ラスタノミ募ノ者ハ、只我
タノム手元ハカリヲ吟味シテ居ル、後生ノ大事ノ重荷ヲ持

テミヨ、今ハ後生ノ一大事ト云重荷ヲカ、ヘタル者ヲ、本願カ
テ助ケ下サル、ト安堵スルコトナリ、イツテモ御文テハ二種
深信ヲ以勸メ玉フカ其意テ、我身ハアシキ徒ヲ者ト、機ヲ
信シテミレハ外ニヤリ所ハナヒ、夫ヲ其マ、助ルト云勅命カ
真受ニナリテ、打任セタカ後生タスケ玉ヘトタノムノチヤ、三
業タノミナトハタノミサヘスレハタスカルト思テ居レトモ、中
々已カチカラテ何ニホトタノシタトテ助ルヤウナ小ヒ後生
テハナヒ、諸佛ノ御チカラテサヘモ餘シ玉ヘル重荷チヤニ
依テ、一大事トアル、夫ヲ助ルトアル勅命ヲ聞開ヒタレ
ハ、タノム足元ニテ居ル間ハナヒ任スヨリ外ハナヒ、是テナケレ

ハ御報謝モ勤メラレヌ、一業ナトハ助テ貫フタ替リニ稱ル
ト云意ナリ、依テ佛恩報謝ハ曾テ勤マラス、重荷ヲ持テ
山ヲ越ルニツレヲ持テヤロフト云テ取テクレルニサテモ嬉
ヤト受ルヨリ外ハナヒ、彌陀ノ方カラ助ケシト云勅命夫ヲ
聞トヒトシク嬉ヤト思フ、其時カ直ニ後生助ケ玉ヘトタノミ
任フルノチヤ、依テ初一念ヨリ佛恩報謝ナリ何レニモセヨ後
生タスケ玉ヘトタノムハ上來ノ二義ニ在ト知ヘシ、

以上

○香月院講師末代无智御文阿彌陀佛ノ下講辨因出
寫本現存於所々

阿彌陀佛ヲフカクタノニマヒラセテトハ歸命ノ二字ノコ、
口ヲ述ル、初二阿彌陀佛ヲト標シ舉サセラレタハ所歸ノ佛
名ヲ舉ルナリ、淨土論ニハ盡十方无尋光如来トアル、夫
ヲ今阿彌陀佛ト云、コレ淨土論ノ歸命盡十方无尋光
如来ト云モノヲ直ニ南无阿彌陀佛ニシテ仰セラル、カ御
文ノ常ナリ、是カ又吾祖ヲ御相承ナサレタモノ、銘文ニ
淨土論ノ歸命盡十方无尋光如来ヲ釋シテ歸命ハ南無
ナリ、盡十方无尋光如来トマフスハスナハチ阿彌陀如来
ナリト、歸命盡十方无尋光如来ト云カ直ニ南無阿彌陀
佛トソコテ今モ本願ノ三心ヲ論主カ一心歸命トナサレタ、

其歸命盡十方无碍光如来ヲ舉ルノニ、盡十方无碍光如
来ト云ハスニ、阿弥陀佛ヲフカクタノミマヒラセテトノ玉フ
サテ此タノムト云言ノコト委ク辨スルトキハ一座ヤ二座テ
ハ辨シ盡シカタケレトモ、是ハ近來ノ夏講ニモ每度出タ
コトナリソコテ爰テハ省畧イタス、歸命ノ御字訓ナゾヘワ
タリテ辨スルトキハ甚タ廣フナルナリ、是ハ近來講説ニ
出タコトナリ、トキニタノムト云コトヲサソト申ストキハ歸
命辨ナリソノ一類テハ、欲生願生ノ欲願ノ二字ノコロヲ御
文ニタノムト仰セラレタモノト、是ハ祖釋ニモ无コト、御文ニ
モ无コト是ハ取違ヘナリ、又本願決テハ信樂ノ信ノ字ヲタ

ノムト訓スルト申セトモ、是又釋名門ト出体門トヲ相混シタ
辨シ方ナリ、是又用ヒ區セ、御文ニタノムト仰セラレタノム
ノ言ハ歸命ノ歸ノ字ノ訓ニテ、是ハ我祖相承ノ御釋異
求スヘカラス、是カ廣文類ノ行卷ノ歸命ノ御釋ノ精要ヲ
得テ仰セラル、コトナリ、蓮如上人ノ御文ノ御言ヲ解スル
ノニ源氏物語ヤ伊勢物語ヤ古今集アタリヲ吟味シテ
ハ夫テハ知レヌナリ、廣文類ヲ表紙ノ破レルホト御覽ナサレテ
御作りナサレタ御文ナレハ、ナシテモ御文ノ據ハ廣文類ニ
アル、當時世上ノ三業タノ三意業募ノ者ナト、本ト誤リ
ト云モノハ此タノムト云言カラ誤タモノナリ、タノムト云ハ

占部云一歩千里ノ誠言此一段讀者容易ニ看過スル所ナリ世ニ初念後念ノ區域ヲ立テ不知不識初起ノ一念ハ業業ノ願求上ニ其解ニ階比者比々多ク今此辨越請フ清眼ヲ開テ見ヨ

今ヨロ人間ニ向フテ物ヲタノムコトチヤト思カラ、口上ニ顯サテハナラヌノ心テ助玉ヘト思タ吃度覺カナケレハナラヌノトカフ取違カアル、皆此タノムト云言カラ迷テキタノナリ、御文ノ安心ノ御教化ハトツト廣文類ヲ御相承ニテタノムト云ハ歸命ノ歸ノ字ノ心ト定メサヘスレハ歸ハ敬順ノ義テ人間同士ニ物ヲタノムヤウニコチカラタノミカケテ向ノ人へ合點サセルトハ違フ、佛ノ方カラタノメ助ケフト仰セラレルニ從フテ、如来ノ他カラタノム、一寸シタコトノヤウナレトモ、爰カ一ツ間違フト云ト、一步千里テ大ナ安心ノ取損ヒカ出來ル、ソコテ御文ノ一念歸命ノ

タノムト仰セラレタノハ、タノミニスルナリタノムナリ、コレヲ三業者流ナトテハ、初○念○ハ○行○者○ノ○方○カ○ラ○タ○ノ○ミ○カ○ケ○ル○チ○ヤ○ニ○依○テ○先○タ○ノ○ム○ト○、タノミ終テカラ後ニタノミニスルノチヤトケヤウニ心得ル、是甚タ然ラス最初ノ初○念○カ○タ○ノ○ミ○ス○ル○ナ○リ○タ○ノ○ム○ナ○リ○、夫ヲハ三業者流テハ一念歸命ノトキハ助玉ヘトタノミカケルナリテ、御助ケ決定ノ思ハマダナヒト心得テアルニヨテ、ソコテタノミニスルテハナヒ只タノム斗リチヤトカフ申ス、御正意テハ左右テハナヒ御正意ハ初一念ノ所カハヤタノメ助フノ本願他カラ決信スル心チヤ、弥陀如来ノ本願ノ我等ヲ助玉フコトハリカ聞開カレ、イヨク

御助ケツト決信スル心チヤニ依テ、初一念カハヤ願カヲ
タノ三ニスル心ツコテ初一念カタノ三ニスルナリタノムナリ、
其タノムト云ハ行巻ノ歸悅歸稅ノ二義ノ心ニテヨリタ
ノムヨリカ、ルナリ今迄ハ助ルマイヤラト疑ノ晴ナンタ者カ、
今本願名号ノ謂レカ聞開カレテタノメ助ケフノ本願ヲ
決信シテ、其本願他カニヨリカ、リ打モタレテ後生ノ大
事ヲスツカリト、如來ノ他カニ打任セタ心ヲ、タノ三マイラ
セテト云、是テ死レハ此フカクタノムト仰セラレタ深クト
云言カ消釋シ難ヒ、三業タノ三ヤ意業募ノ者ノ心得
ヤウニ人間ニ向フテ物ヲタノムヤウナタノ三チヤトスルトキ

ニハ此フカクトアル所テハ聲テモ大キフシテタノムト云カ、
心ニモシツカリト性根ヲスヘテ心ニ氣張テタノムト云カセ
子ハ此フカクト云言カスマヌ、是ハ現ニ近年京都ナトテモ、
公儀カラ御制禁ノアリタ御藏ヲ法門ノ類ヒハ此御文
ノフカクタノムト云トコロヲ證據ニシテ、ナシテモ弥陀ヲ
タノムノチヤニ依テ、フカクタノムトアルカラハツイ一寸シタ
タノミテハスマヌ、三日モ四日モ助玉ヘライワセタト云事ナ
リ、此御藏法門カ笑ハレヌ比皆世上ノ三業タノ三ヤ意業
募ノ族カ、後生ノ一大事ニ付テ弥陀ヲタノムチヤニヨテ、
口ノ契フ者ナラ屹度口上ニモ頭シフフナモノナリ、鉢タノ

契フ者ナレハ佛前ヘモ出テタノミツフナモノナリ、弥陀ヲ
タノム程ナ大事ナコトハナヒ者チヤニ依テ、イツタノニヤ
ラ覺ノナヒ様ナウロシナコトテハスマヌト、如是ニ云ノカ
ヤハリ彼秘事法門ニ髣髴タルモノナリ、御正意ハ左ヤウ
テハナヒ、御正意ハタノムト云カ歸悦歸稅ノ義テ、他カヲ
タノムノナリ他カヲタノムノチヤニ依テ、深クタノムト云ハ
行者ノタノミフリヲ深クスルコトテハナヒ、如来ノ他カ
ヲフカクタノム、是ハ先達テ夏講ニ辨シタコトテ、觀經
ノ深心ヲ善導ノ御疏ニ深ク信スルノ心ト仰セラル、御
文ニフカクタノムト仰セラレタ、フカクノ言ノ出處ハ彼深

ク信スルノ深ヒト云言ヲ御取ナサレタニ違ナレ時ニアノ深
ク信スルト云カ大日經ノ義釋ヲ引テ辨シタ通りテ、信解
ノ信ト深信ノ信トカ違フ、其信解ノ信ト云ハ我方ヲフカメ
テ掛ルコトハ信解ノ信ノ方カ勝レル、大日經ノ疏ニ喻カア
リテ、井戸堀カ段々井戸ヲ堀テトント水ノ出ル處マテ
堀付ルカ信解ノ信、コレハ我信シフリハ吃度フカメルノテハ
アレトモ向フノ相手ヲ信シヤウカ淺ヒノチヤニ依テ、ソコ
テ深ノ字ハ與ヘラレヌ、我方ヲフカメレハフカメル程、向フヲ
淺フ思カラフカメルナリ、ワコテ信解ノ信ニハ深ノ字ハ與
ヘラレヌ、又深信ノ信ト云ハ我方ニハ子カラ念慮モ分別モ

ナヒ、豫テ嘘偽ヲ云ハヌアノ人ノ云コトナレハ嘘ハナヒト信
スルナレハ向フヲ信シヤウカ深ヒノキヤニ依テスヲコテ深信
ト名ルト云カ大日經ノ義釋ノコ、口善導ノ深ク信スルノ
心也ト仰セラレタ心カ在様ナリ今ノ御文ニフカクタノムト
アルモ亦復如是、全体行卷ノ歸命ノ御釋ヲ御相承ナサ
レタ御文ノ思召ハタノムト云ハ他カヲタノムタノミヤウノ深
ヒコトヲ教ヘ玉フナリ、後生ノ一大事キヤニ依テ念ヲ入レテ
タノミソフナモノキヤト、行者ノ身ガマヘスルハ是ハマタ本願
他カニスツカリト疑カ晴ヌカラ、本願他カヲマダ少シウロ
ント思フ心カアルサカへ行者ノ身ガマヘヲシテカ、ルノナ

占部五或精
求家去タス
ケ玉ヘノ請
求ハ初ニ念
ニ限ルタ
三ナカラハ
後念ナリト
明若然初
一念ハ覺
アリヤ將又
ナキヤ覺
リト云ハ
誦所
ニレテ願生
壽命ナリ
ハナレト云
ハ、初念モ
知ラ入現在
後念ノ念モ
ナレ志ハ

リ、御正意カラ味メテミテハ夫カヤツハリ淺ヒタノ三ナリ、ナニ
ホト心ニ吃度ト覺ヘカアラフガドノ様ナ大ナ聲ニタノマフ
ガ、行者ノ身カマヘヲシテ居ル間ハ如来ノ他カヲタノムコ
トカ淺ヒノキヤニ依テ、深クタノムトハ言ハレヌ、本願名號
ノ謂レニ疑カハレ已ガ自カノ斗ヒカサツハリヤンテ、本願
他カノ手ツヨヒ所ニ打モタレテ、二ノ足フマスニ如来ノ他
カヲタノム心ニエリタノカ、是カフカクナノムナリ彌陀ヲタ
ノムト云者ハアレトモ兎角如来ノ他カヲタノム者カ少
ヒ、依テウコテ御念ヲ入サセラレテフカクタノメト仰セ
ラレル、三ナ我心ヲタノミニシテ我相タ身フリヲタノミニ

无想トスル
欲如何々々

シテ、カフタノシタテヨカロフノア、タノシタテヨカラフノト、
如来ヲタノムテナシニ我方ヲタノミニスルノナリ、夫テハ
ナンホタノシタト云テモ深クタノシタト云モノテハナヒ、已
カ身フリヲツクラフコトヲ止メテ、阿弥陀如来ノ本願他
カヲタノムコトカ深フナリタノテ无レハナラヌ、ソコテ阿
彌陀佛ヲフカクタノミマヒラセテト仰セラル、是カ御文ノ
御相承チヤニ依テ、爰等ノ所ヲハ取違ヘノナヒヤウニ相
心得カヨキナリ

已上

○圓乘院講師改悔文タスケタマヘノ下講辨

古部云此
スケ至ハト
ハ極テ願
心ナリト
辨ヲ誤
テ誤師ノ願
生歸命上云
者アリ今云
是筆録ヲ見
ル疎漏ト云
ハサルヲ得
ス此願トハ
願生歸命者
ノ如キム体
ニ向テ欲願
ニアラズ次
下三引續卷
法門各卷
ノ法要和

寫本現存于所々
タス。五。上。六。種。テ。願。ヲ。心。ナ。リ。サ。ニ。唯。今。改。悔。文。ハ。相。承。
主。此。御。意。アリ。ヤ。答。天。親。菩。薩。世。尊。我。一。心。歸。命。等。云。
天。親。論。主。ハ。一。心。ニ。无。異。光。歸。命。人。等。上。然。ハ。弥。陀。三。歸。
命。ス。ル。云。ハ。四。故。ノ。大。寺。御。指。南。依。テ。五。帖。目。第。二。
雑。行。ヲ。ス。ラ。一。念。ニ。弥。陀。如。來。今。度。ノ。後。生。タ。
ス。ケ。玉。ヘ。ト。フ。カ。ウ。タ。三。申。サ。シ。入。ヲ。ハ。等。此。論。主。ノ。一。心。
ハ。三。信。即。一。心。ノ。信。心。ナ。リ。其。證。ハ。信。卷。末。言。一。念。者。信。心。
无。二。心。也。乃。至。真。實。也。上。經。文。二。念。云。ハ。信。心。先。三。心。
改。等。上。二。心。下。疑。ノ。コト。云。二。心。上。云。善。見。律。十。三。業。十。九。

改悔文講辨 圓乘院講師部 三十三

疑者二心也一云見口トニモセヨ聞三三モセヨ疑心ハ
三心ナリ故テ本願ヲ信ス心ニ少ク斗可モ疑心ナキ故
ニ二念ト云是ヲ論主ハ二心ト名クテ後カラ四依ノ大士
ノ極度玉ヘルナリ淨土參ノ因ハコソ一心トナリ是ヲ曇
鸞道緯此一心ヲ傳テ淳一相續心トシ玉ヲ故ニ和讚
ニモ如實修行相應ハ信心トツニ定メ多ク上ニ懸ニ淳一
相續心ヲ顯シ玉ヲ爰ヲ安樂集ニ此三心ヲ具シテ淨
土ニ往生セシコトナリ於陀ノ誓ナリ依テ正信偈
ニハ道緯トナリ顯シ至ラ是ヲ善導ハ增セシム一心專
念彌陀名號ト相承シ玉ヲ元祖モ此文ニ依テ淨土門

ヲ開玉ハ人知テス聲ヲ舉テ落涙シ至ラ此善導ノ
文ナリ故ニ多證文ニ一心專念ヲ釋シテ一心ハ金剛
ノ信心トシ專念ハ一向專修ナリ餘佛ニウツラス專修
念佛ニ依テナリマコトニ論主ノ信心ヲハ如是漢土三祖
ノ相承ナリ是ヲ和讚ニ吾祖盡十方ノ无尊光佛乃
至コトナリ是迄ハ安樂集ハ信心書ナリ夫ヲ未學ハ
取違テ論主ノ云トニ云ハルヲ鸞師ニアルノナリト
爰ヲ色々ノ説ヲ舉シ大ナリ杜撰ナリ是ハ安樂集ヲ
舉玉ヲ度衆生ノ心ハコレ利他眞實ノ信心ナリハ善
導相承ナリ其義ハ略文類十四ノ上ニ在テ明ナリ

古部云上来談師引證
辨義釋疑止疑初三
此改悔文集了りヤト
問テ答ノ意ハ論主ノ一
心歸命ナリ此ハ心ハ三
心即一ノ信心ナリト陳
へ来テ今卷ニ至テタス
ケ玉ヘテ解スニ三通ノ
御文ヲ引テタスケマシ
マヒタスケ玉ヘハ一信
ノ信ノコトナリ唯彌陀ノ
信スル斗ノ聞名ノ信心
ノコトナリト云辨成ナリ
以三通ノ御文ヲ開ケハ
則明瞭ナリ依テ談師ハ
タスケ玉ヘハ體ノ物ニテ
ルヤウニ思ナリ御文ノ御
教花明ナリト断言セラ
レタリ

念ラコルトキ等此タスケ玉ヘト云コトヲ腫レ物ニアタルヤウ

二思フナリ御文ノ御教化明ナリ又十五通云ナニノワツラヒモ
ナク弥陀如来ヲ一心ニタノミタテマツリテ其餘ノ佛菩薩
等ニモコノロヲカケスレテ一向ニフタコノロナク弥陀ヲ信ス
ルハカリナリコレヲ以テ信心決定トハ申スモノナリト其次
ノ文ニ信心トイヘルニ字ヲハマコトノコノロトヨメルナリ等
ト如是明ニ至フ夫ヲハ最初ノタノムハ凡夫ノ自カヨロナ
リナト、夫カ直ニ行者ノ自カノワロキヨロナリ、最要鈔
ニコノ信心ヲハマコトノコノロトヨムウヘハ凡夫ノ迷心ニアラ
ス全ク佛心ナリト、全クトハ全体佛心ナリト云コト、最初
ノ終ノト云コトハナヒ最初カラ佛心ナリコレヲ我等ニサツ

ケ玉フトキ信心トハイワル、ナリ、問其與ヘ玉フハイカ、聞
其名號ノ聞ノトキナリ、最要鈔ニ我カシユクテ信スル心
ニ非ス聞其名號トイフハ聞トハ善知識ニアラテ如來ノ
他カヲモテ往生治定スル道理ヲキ、定ル聞ナリトアリ
テ、タノム一念ノトキ往生一定ト定ル聞ナリ、又最要鈔
ニ經釋ステニ聞ヲモテ詮要トセラレタリト、依テ此所ハ
紛レヌヤウニスヘシ、助玉ヘトハ極樂ヘ參リタヒト願フナリ、
依テ讚ニ安樂國ヲ子カフヒト等、全ク淨土論相承ノ
趣キ明ナリトキニ此所ヲ何ニ依テ顯シ玉フソト云ニ、
爰ニ恐レナカラ執持鈔ノ心ナルモノ歟、其文ニ歸命ノ

多クタマ
ヘテ語ヲ解
ス

コ、口ハ往生ノ爲ナレハマタコレ發願ナリ、コレハ往生ノ爲ナレ
カ故ニソコヲ後生タスケ玉ヘトノ玉フ故ニ極樂ニ參リタ
ヒト云コトナリ、往生ノタメト云ハ御タスケ候ヘト云コトナ
リ、我等カ今度ノ一大事ノ後生御タスケ候ヘトハ問其
執持鈔相承アリヤ、答元祖ハタ、往生極樂ノタメニハ南
无阿彌陀佛ト申シテ往生スルソト等トタ、往生極樂ノ
爲ニハトハ是ハ觀念法門ニ第十八願ヲ釋シテ、願生我國
稱我名字トアル願生我國ノ言ヲタ、往生極樂ノ爲ニハ
トノ玉フ是ヲ相承シ玉フ執持鈔ナリ、夫ヲ蓮師ハ往生ノ爲
ニハト云テハ愚癡ナル者ハ合點ユクマイト思召テ一大事ノ

女ノムト
ヲ解ス

後生御タスケ候ヘトノ玉フ ○タノムトハチカラニスルコトナ
リ此チカラニスルト云コトハ和讃ノ大心カヲ歸命セヨト云歸
ノ字ノ左ニヨリ反タノム反トアル反ト云ハ假名ヲ付ルコトナリ
○○○○○タノムトハチカラニスルコトナリ源氏ニモ佛
神ヲタノミ佛ヤ神ヲチカラニスル又ハ深クタノミ申スコノハ
ンヘリシトキ、エテトアルタノミ申スコノハヘリシヲキ、エ
テト云ミナチカラニスルコトナリ、問御文ニアリヤ答勿論ノコト
タノミヲキツル妻子モ財寶モトアル、妻子ニハ物ヲ云ヘトモ
金銀ニハナヒチカラニスルコトナリ又五帖目抑男子モ女人
モ罪ノフカ、ラシトモカラハ諸佛ノ悲願ヲタノミテモ等ト

ハチカラニシテモ諸佛ノチカラニテハナカク、カチワサルト
キナリトアル、然レハ今モ我等カ今度ノ一大事ノ後生
タスケ玉ヘト彌陀ヲチカラニスルナリ、御文ハ三ナ此コ、ロ
ナリ、依テ南无ト云二字ハスナハチ極樂ニ往生セント願ヒ
テ彌陀ヲタノムコ、ロト紛レヌヤウニノ玉フ、一心一向ニ阿弥
陀如來後生タスケ玉ヘト一念ニフカクタノミ申サンモノヲ
ハト、右ノ如クノ玉フコト明ナリ、左スレハ蓮師私ノ教化ニ
非ス、曇鸞道綽善導明白ナルコトナリ、トキ御言ハ聞
ヘタカ申シテ候ト云ハナニコトヲ申スヤト云ニ是ハ助字ナ
リタノミマシテ御座ルト云コトナリ、

以上

○圓乘院講師改悔文タスケ玉ヘノ下講辨 寫本在所々
一心ニ阿彌陀如來等讚ニ天親論主ハ一心ニ无尋光ニ
歸命ストアリ、御文テハ五帖目第二モロクノ雜行ヲス
テ、一念ニ弥陀如來今度ノ後生助玉ヘトフカクタノ三
申サシ人ハト有テ言ノ具略ハアレトモ全ク同レトナリ
此外ニ御文ニ所々ニ此言ノ次第テ勸メ玉ヘリ、一心歸
命ト云ハ淨土論ノヨ、只、一念歸命ト云ハ願成就ノ經
文ノ心ナリ、論主ノ一心ト願成就ノ一念ト言ハ異ニシテ
心ハ全ク同シトナリ、今ノ所ハ一心歸命ノ相タナリ、一

心ト云ハ論主ノ世尊我一心トアル一心ナリ、三信即一ノ信
心ヲハ一心ト云、信卷ニ願成就ノ一念ヲ釋スルトコロニ、即
チ論主ノ一心ト一念ト全ク一ツナリト御指南アリ、其文
ニ言、一念者信心无二心故乃至真因也トアリ、コノ一念
ト云ハ信心ノコトニシテ行ノ一念ニ非ス、行ノ一念ナレハ念
ト云ハ念聲是一ヲ口ニ顯ス稱名ノコトナリ、今願成就ノ一
念ノ念ハコノ口ナリ、故ニ信心ノコトナリ、只念ト云ハスニ一
念ト云ハ二心无カ故ニ一念ト云ニ心トハ疑ノ心ナリ、善
見律十三葉十九 狐疑者於見聞狐疑疑者二心也トアリ、狐
ノ性ハ疑ヒ深キ者ナリ、見コト聞コトニ疑ヲ狐疑ト云ニ心

ナリ然ハ弥陀ヲ信シテ少シモ疑ハヌコノロヲ一念ト云
此一念ヲ論主ハ一心トノ玉ヘリ、銘文ニ論主ノ一心ヲ釋
シテ云、一心ト云ハ教主世尊ノミコトヲタユ、コナク疑ヒ
ナシトナリスナハチコレマコトノ信心ナリトアリ、一心ト云ハ
フタゴ、コナクウタカヒノナキコノロナリ、是カ即チ眞實ノ
信心ナリ、三信即一心ノ一心ナリト釋シ玉ヘリ、此一心ハ論
主ノ一心トスハルヘシ、此論主ノ一心ヲハ鸞師緯師モ口トモ
ニ相傳ヘテ一心淳心相續心ト釋シ玉ヘリ、讚テハ鸞師
ノ下ニ具ニ釋シ玉ヘリ、正信偈テハ緯師ノ下ニ明シ玉ヘリ、
是ヲ善導相承シテ一心專念彌陀名號ト顯シ玉ヘリ、元

祖上人此善導ノ一心專念彌陀名號ノ文ニ依テ立トコロ
ニ淨土ノ眞門ニ入玉ヘリ、又此一宗ヲ開闢シ玉フモ此一
心專念ノ文ヨリ起ル應知此善導ノ一心專念ノ文ヲ
一多證文ニ釋シテ云、一心ハ金剛ノ信心ナリ專念ト
云ハ一向專修ナリ一向ハ餘ノ善ニウツラス餘ノ佛ヲ
念セストアリ、論主一心ト判シ和尚一向ト釋スル所ノ明白
ノ我祖ノ御指南ナリ、如是相承ノ釋ヨリ見ハ只今ノ所
一心歸命トノ玉フハ、全ク淨土論ノ心歸命トツケテノ
玉フ、御言ハ見ヘ難キナリ、一心歸命ト云御言ハアリ、覺
如上人ニ至リテ一念歸命トノ玉フ、御言ハ彼此アルナ

リ、御文ニ至テハ一心歸命トモ一念歸命トモノ玉フナリ
只今ハ一心歸命ノ信心ヲ述ルナリ、一心即歸命々々即
一心ナリ、讚ニ盡十方ノ无導光佛一心ニ歸命スルヲコソ
乃至コソ心スナハチ他カナリト云ヘリ、此展轉釋テ一念
歸命ノ信ト云コトハ更ニ異論ナシ、一心ニ歸命スルヲコソ
ト改メテニコカ願作佛心ナリ、眞實ノ信心ナリ、金剛心
ナリ、菩提心ナリ、是カ他カノ信心トナリ、祖師ヲ曲ル
コトハナラヌナリ、御文ノ上テハ八十通乍ラ一念歸命ト
云コト先證ヲ出サハ一帖目第三ニ一心ニフタコロナ
ク弥陀一佛ノ悲願ニスカリテ助ケマシマセト思ユ、ロノ一

念ノ信マコトナレハトアリ、誰カ見テモ口上ニタノムコトニ
非スタスケマシマセト思フ心ノ一念ノ信マコトナレハトア
レハ一心即歸命々々即一心ナリ、一帖目第七眞宗再興ノ
相タラ願ス御文ニフタ心ナク弥陀ヲタノニ奉テ助玉ヘ
ト思フユ、ロノ一念オコルトキトアリ、明白ナル御教化ナ
リ、去ナカラ我賢クテ信スルニ非スタノムニ非ス、弥陀回向ノ
信心ナルユヘニ一帖目第三今ノ信カニ依テ御タスケアリツ
ルト云ヘリ、他カ回向ノ信心ノ御教化ハ一帖目第十ナニ
ノワツラヒモナク、弥陀如来ヲ一心ニタノニ奉テタノ餘ノ
佛菩薩等ニモユ、ロヲカケスシテ一向ニフタコロナク、弥

陀ヲ信スル斗リナリコレヲ以信心決定トハ申スモノナリ等
ト一向ニフタコロナク。彌陀ヲ信スルカ信心決定ナリトナ
リ次ニ信心トイヘル二字ヲハマコトノコロトヨメルナリ等
ト彌陀ヲ信スルコロヲハ信心決定ト云其信スルコロヲ
マコトノコロトヨムハ他カノヨキコロナルカニマコトノコ
ノロトヨムトナリ、是ハ全ク覺如上人ノ御指南ニ依玉フ
最要鈔ニ信心歡喜ノ信心ヲ釋シテ云此佛心ヲ凡夫
ニサツケ玉フトキ信心トハ云ハルナリトアリ、誰カ見テ
モ動カヌヤウニ指南シ玉ヘリ、時ニ彌陀ノマコト心ヲハ
凡夫ニ授ケ玉フトキ信心ト云ハルト云、其凡夫ニサツ

ケルハイツレノトキニ授ルト云ニ此カ肝要ナリ、ナカニモ十
劫ノ昔ニ授テ玉掛ナカラ迷ヒコソスレト云此カ聖道門
ノ理談ヘカ、ルコトナリ、他流テハカクノ如ク申セトモ、當
流ハ然ラス何レノトキニ授ルヤト云ニ、聞其名號ノ位
ニ授ルナリ、故ニ最要鈔ニ我カシコクテ信スル信ニ非ス
聞其名號ト云聞ト云ハ善知識ニ逢テ如来ノ他カヲ
モテ往生治定スル道理ヲキ、定ル聞ナリトアリ、然レハ
名號ノ調レヲ聞ワケラレタル心カ信心歡喜ナリ、後生
助ケ至ヘトタノムコロナリ、是カタノムモノヲ助フト云六
字ノ調レヲ聞分ケラレタカ後生タスケ玉ヘノ心ナリ、是

テモマタ意得兼ルニ、又最要鈔ニ經釋ノ聞其名號ノコトワケヲ引テ云、經釋ステニ聞ヲモテ詮要トセラレタリヨクキクトコロニテ往生ノ心行獲得スル條顯然ナリトイヘリ、經釋ノ所詮ハ聞ナリヨクキク所ニテ往生ノ心行ヲ同時ニ獲得スルトノ玉フ、コレ玉カケナカラ迷ヒヨソスレテハトフシタモノソヤ知レヌ、故ニ今文ニ我等カ今度ノ一大事ノ後生御タスケ候ヘトタノ三申シテ候トイヘリ、玉カケナカラテハナキナリ、信樂開發シテ聞トコロニテ授ケ玉フナリ、故ニ聞カ即チ信心ナリ、右ノ通りナレハ他カノ信心ト云コトハヨクくキコヘタリ、然ハ助玉ヘトタノムハ

占部書前
列ル該師ノ
録今ト具喜
ノ異ニシテ
義脈全同ナ
リ前評ノ如
シ

信心ナリ、口上ニ述ルニ至ラス心ノ信心ナリ、タトヒ心ト云テカラカ六字ノ謂レヲ聞分タ上ハ此方カラ助玉ヘトハコブ歸命ニアラス、名號ノ謂レヲキ、ワケタ心カソツクリ助ケ至ヘノ信心ナリ、是ハ下ニ至テ辨ス、問云阿彌陀佛ハ其体行ナリ、御文ニモ南无阿彌陀佛ノ行体ト云ヘリ、然ルニ南无トタノムヲ信心ト云ハ何ニヨリテノ玉フヤ、答此義肝要ナリ南无阿彌陀佛ハ行体ナリ、行体ノ南无歸命ヲ信心ト云コトハ合點ニキ難シ、然レトモ私ニノ玉フニ非ス、善導ノ言南无者ノ意テ行体ノ南无歸命ヲ信心ト勸メ玉フナリ、御一代聞書云法敬坊安心ノ

トヨリ讚歎スル人ナリ、言南无者ノ釋ヲハイツモハツ
サス引人ナリ、ソレサヘサレヨセテマフセト蓮如上人御掟
候ナリトアリ、難有御指南ナリ、サレヨセテ申セトハ言
ハ少ナニト云コトナリ、イカサマ愚夫愚婦ノ者ニハ南
无ハ歸命亦コレ發願回向ナト、云ヒ、歸命ト云ハカフ心
得コト發願回向トハカヤウニ心得コトナト、云テモ合
點ユカヌナリ、言ハ少ナニ云ヘトノ玉フ、其言少ナリ云ハ
タノムモノヲ助ケフトアルカ名號ノ謂レナリ如来ノ誓
ヒナリ、夫ヲ聞開ヒタカ信心ナリ安心ナリ、夫カ其儘後
生助ケ玉ヘノ心ナリ、是ヨリ外ニサレツケテ安心ヲ勸

ルコトハ无ナリ、御一代聞書御文ノ始終此心ナリ四帖目
^{十四}通當流安心ノ体ト云コト南无阿弥陀佛ノ六字ノスカタナ
リトシルヘシトアリテ、言南无者ノ釋ヲ引ケリ、約ル所ハ
タノムモノヲ助ケフト云御勸化ナリ、故ニ言南无者ノ
釋ヨリノ玉フトスハルヘシ、次ニ道理ヲ云ヘシ其道理ハ
南无ハ阿弥陀佛即是其行ニ對スル南无歸命ナレハ理ト
シテ信心ナリ夫ヲ行トハ云ハヌナリ、當流テハ悲願ノ信
行ナリ信ト行トハ如来ノ御誓ヲ申スナリ是ヨリ外ハ
无ナリ、即是其行トアレハ南无歸命ハ信心ナルコト明ナ
リ我祖ハ歸命ノ釋ハ仰ニ順フト云釋ナリ、如来ノ勅命

占部此段ハ我祖ノ勅命順フトモテ直ニ逆師ノタスケ玉ヘナリト云會合釋ナリナリト云出ル香月院師會合釋上向一軌ナリ熱々而師ノ録ヲ按スルニ俱ニ共ニタスケ玉ヘハ信順ノ義ヲ其體トシ傍ニ欲願請求願生淨ヲ示ス意味辨述上ニ於テ昭々火ヲ見カ如ク是當流聖人ノ一義ハ救行信證トイヘル段ノ名旨ヲ立テ一宗ノ軌模トシ五ハルトコロノ正行歸スル宗ノ本意ヲ懇懇ニ辨述セラルトコロは覽客斯ニ者目セヨ

占部云タスケ玉ヘノ言ハ三家共ニ用ヒ其心ハ三家共ニ異リトハ實ニ確言ナリ例セハ歸命ノ解狀三家各々其義ニ准シテ解ヲ異ニスル如ク今タスケ玉ヘノ言モ亦然リ言同意別ナリ又香月院師ノ云御文ノ御言ヲ解スニ源氏物語ヤ伊勢物語ヤ古今集ヤタリヲ吟味シテハ夫テハ知レズ廢文類ヲ表紙ノ破ルホト御覽ナサレテ御作ナリト云云是亦實ニ流リ廢略二本ノ三二間答ノ結句ハ三心合シタル真實信心論主ノ一心歸命ナリ依テタノムモタスケ玉ヘモ信歸ノ

○二○隨○フ○カ○歸○命○ナ○リ○其○勅○命○ニ○隨○フ○カ○信○心○ナ○リ○彌○陀○
○ノ○勅○命○ニ○信○順○ス○ル○カ○信○心○ナ○リ○其○彌○陀○ノ○勅○命○ト○ハ
南○无○阿○彌○陀○佛○ノ○六○字○ナ○リ○其○六○字○ハ○タノムモノヲ
助○ケ○フ○ト○云○謂○レ○ナ○リ○其○タノムモノヲ○助○ケ○フ○ト○云○勅○命
○ニ○隨○フ○心○カ○直○ニ○タ○ス○ケ○玉○ヘ○ト○タノム○信○心○ナ○リ○六○字○ノ
謂○レ○ヲ○聞○ワ○ケ○タ○心○カ○直○ニ○如○來○ヲ○タノム○心○ナ○リ○然○ハ
南○无○歸○命○ハ○信○心○ナ○ル○コト○明○白○ナ○リ○如○是○言○南○无○者
ノ○釋○テ○心○得○ヘ○シ○四○帖○目○通○一○抑○當○流○ニ○タツル○ト○コ○ロ
ノ○他○カ○ノ○三○信○ト○云○ハ○第○十○八○願○ニ○至○心○信○樂○欲○生
我○國○ト○イ○ヘリ○是○ス○ナ○ハ○チ○三○信○ト○ハ○イ○ヘ○ト○モ○タノ彌

陀ヲタノムトコロノ行者歸命ノ一心ナリトアリ、御文テハサラニ彼是ハナヒ、三信トハイヘトモタノ彌陀ヲタノム所ノ行者歸命ノ一心トイヘリ時ニ南无歸命カ助玉ヘノ信心ト云コトハ今家ノ三ニ非ス西鎮ニモ云ナリ、三家ナカラ助玉ヘノ信心トハ云ヘトモ其心ハ三家共ニ異ナリ、悲哉其他流ノ義今家ノ末學ニ混雜ス今更ノコトニ非ス餘程古ヘヨリアルコトナリ、川源雖清烏浴之則濁流之末ト云如ク御本山ノ源ハスニキリテアル當流ノ安心ナレトモ流ノ末ヲ濁ラスハ末學ノ者ノ所作ナリ、何ヲ以濁スナレハ他流ノ

二字ヲ出入目今語路
末ニ迷テ義原ヲ忘ル
者ニ讀者ニ思ヘ

安心ヲ以濁スナリ其道理ナリ先善導ノ釋ヲ講
スルニモ選擇集ヲ講スルニモ西鎮ノ末書ナリ、當流
ノ末書モアレトモ三十安心ニ僻ノアル人ノ末註ナリ、末書
ヲ三ノ二講釋ハ出来ヌナリ、タマク、當流ノ末註ト云ヘハ西
鎮ノ安心ヲ交ヘテ書タモノナリ、喩ヘハ詩ヲ作ルニモ一句ハ
王維体テ作ルト、一句ハ杜子美体テ作ルト云如キナリ、是
ヲ心得タ者ニ見セルト一句々々違フナリ、今亦然リ故
ニ末學ノ者ハ此所テ迷フナリ、然レハ今家ノ安心ノ一段ニ
オヒテハ、祖釋ハ勿論覺師存師蓮師明白ナルニハ三恆常ニ
是ヲ拜見スヘキナリ、時ニ言南无者ヲ改悔文ヘカケテ略シ

テ辨セハ南无歸命ハ能信ナリ能歸ナリ阿彌陀佛即是其
行ハ所信ナリ所歸ナリ即是其行ハ選擇本願是也ト行
卷并銘文ノ御指南ナリ、選擇本願ノ体ハ南无阿彌陀佛
ノ行体ナリ、此南无阿彌陀佛ノ行体ハ万善万行ノ惣体ナ
レハイヨク、タノモシキナリト御文ニモノ玉ヘリ、是ハ我祖ハ讚
ニ選擇本願信スレハト云、或ハ彌陀ノ本願信スレハト云、然ハ
阿彌陀佛即是其行ハ所信ナリ南无歸命ハ能信ナリ、ソレ
ヲ御文ニ念ニ彌陀ヲタノ三奉ルトノ玉、然ハ阿彌陀佛
ハ所歸ナリ南无歸命ハ能歸ナリ南无阿彌陀佛ノ相タ
ハイカント云ニ助玉ヘトタノムモノヲスクヒ玉フ謂レナリ、此

謂レヲ聞ワケタ心カ後生タスケ玉ヘトタノム心ナリ然レハ
 我賢クテ信スルニ非スタノムニ非ス南无阿彌陀佛ノ回向ノ
 信心ナリト教ヘ玉フナリ、名號ノ謂レヲ聞ワケタトキ、ソ
 ヲクリ如来ノマコト心ヲモラヒ受ルカ佛智不思議ナリ、
 等覺ノ菩薩タニモ斗リ知コト能ハス、是カ爲ニ彌陀公五
 劫ノ思惟永劫ノ修行ナリ是カ如来ノ誓願不思議ナリ、
 讚ニ信ハ願ヨリ生スレハ等ト信心ハ如来ノ誓願ヨリ起ル
 イカナルワケテ信スルヤライカナルワケテ聞ワケルヤラ實ニ
 佛ノ誓願不思議ナリ、是ヲ善導ハ彌陀智願海深廣无
 涯底トイヘリ何ナルワケテ助ルヤラ唯佛與佛ノ智見ナリ

是カ即名號不思議ナリ、故ニ讚ニ佛智ノ不思議ヲタノ
 ムヘシトモ、本願ヲタノムトモ、名號不思議ヲタノムトモ、玉
 ヘリ恆沙塵數ノ如来ハ万行ノ少善キラヒソ、等諸佛
 ノス、メハタ、此コトワリ斗リナリ、行卷云攝取不捨故名
 阿彌陀是曰他カトアリ、論註ニハ佛力住持即入大乘正
 定之聚ト云ヘリ、然ハ一心ニ无尋光ニ歸命スルト云ハ佛
 カヲタノムコ、ロナリ、念佛衆生攝取不捨ノ彌陀ヲタノム
 斗リナリ、是ヲ淨土論ニ觀佛本願カト云ヘリ、佛トハ盡
 十方无尋光佛ナリ本願カトハ因位ノ本願カナリ、故ニ我
 祖ハ他カトハ如来ノ本願カナリト示レ玉ヘリ、盡十方

无○身○光○佛○上○云○ハ○オ○サ○メ○取○テ○捨○タ○マ○ハ○サ○ル○ユ○ハ○ニ○阿○彌○陀○佛○ト
云○是○カ○他○カ○ト○ナリ○故○ニ○願○力○不○思○議○ノ○信○心○ト○ノ○玉○フ○御○文
ニ○ハ○不○可○思○議○ノ○願○カ○ト○シ○テ○佛○ノ○方○ヨリ○往○生○ハ○治○定○セシ
メ○玉○フ○ト○アリ○願○ト○ハ○因○位○ノ○本○願○ナリ○カ○ト○ハ○果○上○ノ○神○カ○チ
リ○別○物○ニ○ハ○非○ス○論○註○ヲ○披○見○ス○ヘシ○然○ハ○此○彌○陀○佛○ヲ○タノ
ム○外○ニ○タ○ス○カ○ル○道○ハ○无○ナリ○○タ○ハ○タノ○メ○万○ツ○ノ○罪○ハ○フ○カク
ト○モ○我○本○願○ノ○ア○ラ○シ○カ○キ○リ○ハ○ト○ハ○眞○如○堂○ノ○如○來○ノ○告
至○フ○ハ○爰○ノ○コト○ハ○リ○ナリ○唯○タノ○メ○ヨ○タト○ヒ○罪○業○ハ○深○重○ナ
リ○ト○モ○我○本○願○ノ○ア○ラ○シ○限○リ○ハ○助○ケ○ラ○ト○ナリ○四○帖○目
ノ○レ○南○无○阿○彌○陀○佛○ト○云○ハ○念○佛○行○者○ノ○安○心○ノ○体○ナリ○ト
第六通

思フヘシト、六字乍ラ安心ノ体ト云ヘリ、信卷ニ至心ノ
体ハ至徳ノ尊號ヲ以テ体トスト、三信即一心ユハニ三信ノ体
カ名號ナリ、所歸ノ阿彌陀佛モ南无ノ機ヲ成スルユハニ六
字乍ラ法ナリ、阿彌陀佛ノ四字カ行者ノ機ニ非スト思
ハンコトヲ恐レテ、選擇本願是也ト顯シ玉フ、六字カ即
是其行ナリ六字乍ラ法ナリ南无ノ機ヲ成シタ選擇
本願ノ行体ナリ、行者ノ方ニ於テ助玉ヘトタノム信心
モ阿彌陀佛ニ離レサルユヘニ、六字乍ラ信心ノ体ナリ、然
ハ六字乍ラ法ナリ、六字乍ラ機ナリ、佛ニ在テモ機法
一体ナリ、行者ニ在テモ機法一体ナリ、其六字カ安心

ノ体ニシテ夫カソツクリ口ニ浮フ南无阿弥陀佛ナリ故
ニタノムモ稱ルモ六字ト指南スル言南无者ノ釋ナリ夫ヲ
蓮師ハ取り誤ラヌヤウニ六ケ敷キ云フナサシヨセテ申
セト法敬坊ニ物語ハ我々へノ御示シナリ思量セヨ、

以上

○威光院靈曜嗣講師改悔文阿弥陀如来ノ下講辨

寫本現存于所々

次ニ阿弥陀如来トハ阿弥陀如来ト云佛名ヲ標シ舉
タハ淨土論テミレハ盡十方无身光如来ト云ニ當ル是
カ所歸ノ佛名ヲ標シ舉タモノナリナセニ中間ニ所歸ノ

標名者意

佛名ヲ標舉シテ阿彌陀如來トノ玉フソト云ニ是ハ自ラ
二意アリ、一ニハタノム歸命ノ一念ハ如来ノ勅命ニ隨ヒ
奉ルト云一念チヤト云コトヲ顯ソフカ爲ナリ、今度ノ
一大事ノ後生御助ケ候ヘトタノム申シテ候トタノムト
云ハ、是ハ歸命ノ一念ナリ、此歸命ノ一念ハ如来ノ仰セニ
隨フ一念ナリト云コトヲ顯ス爲ニ所歸ノ佛ヲ標シ舉玉
フナリ、即四帖目ニ云阿彌陀如來ノ仰セラレケルヤウハ乃
至救フヘシト仰セラレタリト、然ハタスケ玉ヘトタノム一念ハ
行者ノ方ヨリ思ヒナラヘテ持ヘタ、ノムニ非ス、本ト如
來ノ方ヨリ我ヲ一心ニタノマン衆生ヲハ必ス救フヘシトア

ル勅命其仰セカ眞受ニナリテ其勅命ニ隨ヒ奉ル一念ヲ
上云コトヲ示サン爲ニ阿彌陀如来一云佛名ヲ標擧シ五フ
又二ニ聞其名號ノ信心ナルコトヲ顯サンカ爲ニ佛名ヲ擧
ルナリ、本ト聞其名號信心歡喜テ名號ノ謂レヲ聞開タノ
カタムム一念ノ領解故ニソコヲ顯ス爲ニ阿彌陀如来ト云
ナリ、御文ニ信心獲得スト云ハ第十八ノ願ヲ心得ルナ
リ乃至スカタヲ心得ナリト信心ヲ得ト云ハ別ノコトニ
非ス、名號ノ謂レヲ聞開タカ信心ユヘニ、御正忌御文ニ
モ他カノ信ヲトルトイフハ別ノコトニアラス南无阿彌陀
佛ノ六ノ字ノコ、ロヲヨクシリタルヲモテ信心決定ストハ

云ナリト、時ニ然ハ南无阿彌陀佛ノ六字ヲ標シ擧ヘキニ
唯阿彌陀佛ノ四字斗リ擧ルハ如何是ハ思召ノアルコト
ナリ、全体タム者ヲ御助ケト云ハ名號ノ謂レナレトモ、行
者ノ聞開クト云ハタノムモノヲト云所ニ目ヲ就ルニ非ス、
タノム斗リテ助ルトアル彌陀ノ御タスケヲ聞開タテナ
ケレハマコトノタノムニ非ス、夫ユヘニイツテモ御文ニ阿彌
陀佛ヲフカクタノメ阿彌陀如来ニ歸命セヨト、南无ノ二
字ヲ除ヒテ阿彌陀佛ノ四字ヲ擧テアル、然レハ何レニモセ
ヨ右ノ二意ヲ以テ佛名ヲ擧ル、時ニ彼一類ノ三業歸命ノ
異解者ハ、爰ニ阿彌陀如来トアルヲ解シテ、是ハ向ヒ

奉ルトヨロノ繪像本像ノ彌陀ヲ呼擧テ阿彌陀如来ト
云テリト云ナリ、ソコテ此阿彌陀如来ト云五字カ佛体
ニ向フテタノム身業歸命ヲ顯ス言チヤト云即チ五劫
思惟ノ御文ノ衆生カ弥陀如来ニ向ヒ奉テトアルト同
シコト、解スルカ三業歸命ノ異解者ナリ、全体身業ヲ
以佛体ニ向フテタノマ子ハナラヌト云コトハ片カラ无コト
ナリ、第一異解者ノ證トスル五劫思惟ノ御文コレヲ弥
陀ノ佛体ニ向フテタノムコト、解スハ笑ヘキモノナリ、弥
陀如来ニ向ヒ奉ルトアルハ躰タカ佛体ニ向フコトニ非ス、
アルハ一心一向ノ相タラ示スナリ、ナセナレハアノ御文ニ先

初二南无ノ二字ハ衆生ノ彌陀如来ニ向ヒ奉テ後生タスケ
玉ヘト申ス心ナルヘシ、ケヤウニ弥陀ヲタノム人ヲモラサス
救ヒ玉フ心ヨク阿彌陀佛ノ四字ノヨロニテアリケリト思
ヘキモノナリトアルハ、所歸ノ法体ノ六字ノ謂レヲ述タ言
ナリ、次ニ是ニ依テイカナル十惡五逆五障ニ從ノ女人ナ
リトモモロクノ雜行ヲステ、ヒタスラ後生助ケ玉ヘト
申サン人ヲハト云トコロカ、行者ノ能信ニ受タ相タナリ、
ソコテ所歸ノ法体ノ方ニ衆生ノ弥陀如来ニ向フトアルヲ、
行者ノ能歸へ受ルトコロテハ、イカナル十惡五逆五障ニ
從ノ女人ナリトモモロクノ雜行ヲステ、ヒタスラ後生

助至へト申サシ人ヲハト受テ來ルナリ、兩方ヲ合セテ
 見ト能ク合ナリ、所歸ノ方ニ弥陀如来ニ向フトアルヲ
 行者ノ能歸ニ受タ所テハ雜行ヲステ、ヒタスラトアル、向
 フトアルハ身業ヲモテ佛前ニ向フトニ非ス、一心一向ノ
 相タト云コトヲ知セテ、次ニヒタスラト云ナリ、ヒタスラト
 云ハ一向ノ文字ナリ、常ノ節用ニモ即チ一向ト書テヒタス
 ラトヨマセル然ハ脇目ヲフラス一心一向ノ相タヲ、彌陀如来
 ニ向ヒ奉テトノ玉フ然ハ此外ニハ八十通ノ御文何レニモ
 身業歸命ノ證據ナシスレハ御文ノ三業歸命ハ立又ナ
 リ以下二葉省略○御タスケ候へトタノ三申シテ候、爰カ正ク本願ノ

勅命ノ受ラレタタノム一念ノ相タナリ、此言ニ付テ近年種
 々ノ異解起ル所ニニ委ク辨セテハナラヌ、此文ヲ辨スルニ付
 テ初ニタノムト云言ヲ解シテ、次ニ御タスケ候へトタノム
 ト云具サナ言ヲ辨スル先タノムト云言ヲ解スルニ付テ且
 ク二段ニ分テ辨スル、初ハ文字ニ付テ解シ、二三訓ニ付
 テ解ス、初二文字ニ付テ解ストハタノムト云文字ニ付今亦
 陀ヲタノムト云タノム言ハ何レノ文字ニ當ルト云コトヲ辨
 スルナリ、此中テ初二古來ノ義ヲ舉テ辨シ、次ニ今ノ正
 義ヲ辨スル、古來ノ義テハタノムト云ハ、頼憑ノ二字ヲ
 タノムト訓スルト云、ナルホトツ子ニ書ク頼ノ字モ、タノム

ト云字ナレトモ、弥陀ヲタノムタノムノ言ニハ甚々疎シ、
 サテ其ウヘ相承ノ釋ニツイニ彌陀ヲタノムト云所ニ頼
 ノ字書タル所一ヶ所モナシ、又憑ノ字ノタノムト云字ハ
 行卷ニモ信卷ニモ所々ニ遣フテアル其外禮讚四十憑ノ
 字遣テアリ然レトモ當流テ弥陀ヲタノムト云タノムハ、
 憑ノ字ヲタノムトノ玉フニハ非ス、然ハ古來ノ義ハ不可ナ
 リ、サテ歸命辨ニハ欲願ノ二字ヲタノムト解スレトモ、是ハ
 大ナル取違ナリ、是ハ本ト三業安心カラ云出シタコト
 テ、助玉ヘト此方カラ願ヒカケテユクコト、取違ルユヘニ
 欲願ノ二字ヲタノムト云ト解スルナリ、又同歸命辨ニ

南无歸命ノ言ヲタノムト訓スルトアリ、是モヤハリ南无歸
 命ニ欲願ノ義アルニヨテソコテタノムト云ハ南无歸命ト
 云ヘトモ、心ハ上ト同ナリ、是カ又甚々ノ誤リナリ、ナ
 セナレハ歸命ノ二字ヲタノムト訓スルコトハ内外典ニ
 未タ見當ラヌコトナリ、御文ニハ所々ニ歸命ト云ハ後生タ
 スケ玉ヘトタノムト申スコトナリト、ノ玉ヒタルハ歸命ノ釋テ
 コソアレ、歸命ノ二字ノ字訓ニアラス、全体アノ歸命辨ノ意
 ハ弥陀ヲタノムト云ハ、憑頼ノ文字ニ非ス、南无歸命ノ言
 テ、欲願ノ二字ヲタノムト訓スト云ハ、是ハ自ラノ自カタ
 ノ三カラ云ヒ出シタコトナリ、只タノムト云ハタノムト云ハ
 ノ三ニ思ヒ

チカラニシテ、ヨリスカル位ノコトニ非ス、人ニ物ヲタノムヤ
ウニシツカリト并へ立テ後生ヲ助玉へト願ヒカケルノテナ
ケレハナラヌト云、自カタノミヲ勸シ為ニ欲願ノ二字ヲタ
ノムト解シ誤ルナリ、マコトニ當流ノ宗義ニ背クサテ又
古來ノ一義ニ信ノ字ヲタノムト訓入是ハ本願決ノ義ナ
リ、歸命辨ヲ破シテ信ノ字ヲタノムト訓スルト云テアリ、
是モ全体本願決者ノ意業募ヲ勸シ爲ナリ、ソコテ進
テハ歸命辨ノ欲願ノタノムヲ破シ、退テハ信スルトタノムトヲ
一所ニシテ、信スルノコト云教化ヲミナタノメノコト云コトニ
シテ仕マフ、何シテ有フトモ心ニ助玉へト思フタノテ无

レハ、信スルノニ非スト是意業募リカラ思付タ本願決ナリ
盜ノ畫謀モアテノ有ト云如クナリ、自分ノ異解ヲ骨張セ
ン爲ナリ、是ハ何レモ當流ニハ不正義ニハ取レヌナリ、時
ニ古説ヲ舉ルニ初ニ憑頼ノ二字ヲタノムト云タモノナリト
云ハ、是ハ多ハ不頼方ノ云ニトナリ又欲願ノ歸命ヲタノム
ト云ハ三業タノミ口上タノミノ者ノ云出スコトナリ、サテ
信ノ字ヲタノムト訓スルト云義ハ、是ハ意業募リノ者
トタノマス方ノ者ト兩方へ通スル義ナリ、ナセナレハ不
頼方ノ者モアノ義ニヨテタノムト云言マテモ、皆信スル
コトニシテシマフナリ、又意業募リノ者ハ今云如ク信ス

ルト云言ハマテヲ皆タノムコトニシテ、心ニ助玉ヘト思ハ子ハ
ナラヌト募ルナリ、是テ古來ノ義ニナ非ナルコト辨シ終
ル次ニ正義ヲ辨スル先當流ノ正義ハ孫陀ヲタノメクト
云、タノメト云訓ハ歸命ノ歸ノ字ヲタノムト訓スルナリ、是
カ祖師以來相傳ノ説テ先行卷ノ歸命釋ノ所ニ歸ノ
字ニ歸悦歸稅ノ二義アリテ、其左訓ニヨリタノムヨリカ
ルトアル、又同行卷偈前ノ文ニ論註ヲ引テ忠臣ノ君
后ニ歸スルト云、歸ノ字ノ左訓ニヨリタノムトアリ、サテ讚
ニハ正像末ノ背正歸邪ノ歸ノ字ノ左訓、僧讚ノ一切道
俗歸敬シキノ歸ノ字ノ左訓、ミナタノムノ訓アリ、然ハ歸命

ノ歸ノ字ヲタノムト云コトハ祖師以來相傳ノ説ナリ夫ヲ
受テ御文ニ歸命ト云ハタスケ玉ヘト申ス心ナリトノ玉フ
是御文ニ信スルトハタノムコトナリ、タノムトハ願コトナリト
モノ玉ハ又歸命トハタノム心ナリトノ玉フ是カ祖師ヲ
相承シテ歸ノ字ヲタノムト訓シ玉フナリ、然ハ當流テ
タノムト云ハ本願ノ勅命ニ歸スル相タノム人間ニ物ヲタノ
ムヤウナコチラカラタノムニカケルニ非ス、本願ノ勅命ノ方カ
ラタノム者ヲ助クルソトヨヒカケテ下サル、其勅命ニ
隨テ疑ヒ晴テスツカリト打任セタタノム相タカ信ノ一
念ノタノムニヤウナリ、然ハタノムト云文字ノ吟味ヲスルト

古今和訓
三義

キハ歸命ノ歸ノ字ヲタノムト云カ今家ノ正意ナリ是
 テ文字ノ正意辨シ畢ル○我等カ今度ノ一大事等
 此文ヲ解スルニ付テ先初ニタノムト云言ヲ解シテ次
 ニ此具サナル言ヲ解釋スルナリ其タノムト云言ニ付テ
 二門ヲ分テ初ニ文字ニ付テ解スト云義ハ上ニ辨シ
 畢ルニ三訓ニ付テ解釋スルト云ヲ辨スヘシタノムト云
 和訓ノ上テ其相タヲ辨スルナリ先タノムト云和訓ニモ
 古來イロクニ取違ルコトナレトモ夫ハ且ク置キ今我
 朝ニ於テタノムト云和訓ノ出タハ何ナル義ソト云ニ凡
 ソタノムト云訓ニ三義アリ一ニハタノニチカラニスル義ヲ

タノムト云ナリ病ニ藥ヲタノムチヤノ小兒ノ母ヲタノム老人
 カ杖ヲタノムト云カ、三ナタノ三ニシチカラニスル義ナリ古
 歌ヤ物語等ニタノムノト云言ハ三ナ此心ナリ「イカニ
 センタノムカケトテ立ヨレハ又袖ヌラス松ノ下タツユト云
 カタノ三ニシチカラニスルコトナリ時ニタノ三ニシチカラニス
 ルコトヲナセニタノムト云訓ヲ付ルソトイハハ是ハ本ト米
 ノコトヲ田ノ實ト云ナリソユテ八月ノ朔日ハ米ノ三ノル
 時節ニハ八朔ノコトヲ田ノ實ノ節句ト云ナリ是アラ
 ヌル一切ノ物ノ中ニタノ三ニナリチカラニナルモノハ米ヨリ
 外ハナヒ金銀ハ澤山ニアリテモ飢饉ノ年ニハ餓死スル

如ナリ然ハ米ハタノ三ナリ夫カラ義カ轉シテタノ三ニス
ルコトヲタノ三ト云ナリ夫ヲマニムモノ通音テタノ三タ
ノムト云ナリニハヨリカハリ任セル義我方ニ仕方カ
ナヒニ依テ向ヘヨリカハリスツカリマカセルコトヲタノムト
云此義ノトキハタノムト云訓ヲ他ヲ身ニスルト云略
語チヤト云コトナリ他ヲ身ニスルト云ヲ畧シテタノ三
ト云是ハ他人ノ身ヲ自分ノ身ニスルト云コトナリ丁
ト大井川ヲ渡ルト云トキハ自分ノ身テハ渡ラレヌユ
ヘニ他人ノチカラテ渡ルナリ是ハ他人ノ身ヲ我身ニ
スルコトナリトコロガ他人ノ身ヲ我身ニスルトキハ向

フノ人ヘヨリカハリ任セ子ハナラヌ我チカラヲ離テ向
ヘ打任セルニスヘテヨリカハリ任セルコトヲ日本テハタ
ノムト云ナリ三ニハ請求メ願ヒ求メル義ヲタノムト云
世間テコラシテ下サレト向ヘ請求ルコトヲタノムト云ケ
レトモ此第三義ハタノムト云言ノ本義ニ非ス正クタ
ノムト云訓ノ本義ハ初ノ二義ナリ是チカラニシタノ三
ニスル義トヨリカハリ任セル義トノ此二義カタノムト
云言ノ本義ナリトキ其チカラニシタノ三ニシテスカリ
任セルトキハ用事カナケレハ任セハセヌソコテタノ三ニシ
テ任セルトキハ自ラ其用事ヲ叶ハセテ下サレト云請

ヒ求ル心ハ自ラ備ル丁ド川越ニ身ヲ任セテ渡シテ
モロフトキハ川ヲ渡ルト云用事カアルユヘニ此川ヲ渡シ
テクレヨト云請ヒ求ル義ハソユニ具ハリテアリ然レハ請
ヒ求ルト云義ハソユニ付テオル是ハ傍義ナリ正クタノ
ムト云正義ハ初ノ二義ナリ然ル所今頃ハタノムトサヘ
云ヘハ唯第三義ノ請求ル義斗リノヤウニ思ナリ是ハ
大ニ取違ナリ古代ノ風ヲ知ラヌユヘナリ御文ノタノメ
クノ言テモ此方カラ助ケテ下サリマセト願ヒ求ル義
斗リノヤウニ思ユヘニ三業歸命ヲツノルヤウニナリテイ
ツノ間ニカ正意ヲ取違ル全体ハ助玉ヲ本願ノ勅命ヲ

ハ助ル縁モ无我身へ聞開テ見トサテハ助ルマシキ者ヲ
願カノ不思議テ御助ソト大願業カヲチカラニシタノ
ミニシテ後生ノ大事ヲ任セル思カ彌陀ヲタノム思
ナリ上來三義ヲ以タノムト云訓ハ辨レ畢ル時ニ此
三義ノ中テハ當流テ彌陀ヲタノムト云ハ何レニ當ル
ソト云ニ全体此タノムト云コトヲ仰セラレタハ蓮師初
メテノ玉ヲコトニ非ス御一代聞書ニ聖人ノ御流ハタノム
一念ノトコロ肝要ナリ等是タノムト云コトハ御代タノ
仰ヲカレタコトナリ其御代々ハ何レニ有ソト云ニ吟味ス
レハ知ルナリ祖師テハ銘文云唯如來ノ至心信樂ヲフ

カクタノムヘシ、又御消息集云念佛ヲフカクタノミテ末
燈鈔ニ南无阿弥陀佛トタノマセタマヒテ、其外僧讚二本
願他カヲタノミツク、像讚ニ佛智ノ不思議ヲタノムヘシ、
如是祖師モ常ニタノムト云言ヲノ玉フナリ本カ己
ナリ、元祖常ニタノムト云コトヲノ玉フ、和燈ヤ黒谷傳
ニ多ナリ、夫ヲ相承シテ祖師ハタノムトノ玉フ、其
外ニ祖師ハ常ニ用ヒ玉フ、唯信鈔後世物語ニタノムト云
言ハアリ、唯信鈔十七葉同廿六葉後世物語十四葉十五葉右
一念多念分別事六葉歎異鈔廿八葉破邪顯正鈔下四葉
女人往生聞書十六葉 其外所々ニ在リ、其外善綽巧

存此四代ノ間ハ御製作ノ書ナキユヘニ知レサレトモ祖
師以來相承ノ言ユヘニ定テ常ニタノムトノ玉フ
コトハ必セリ、サテ蓮師テハ夫ヲ相兼シ玉ヒマコトニ兩
ノフルホトタノムノ言アリ如是祖師以來代々ノ善知
識蓮師ニ至マテタノムト云言ヲ、カソヘ立玉フタハ全ク
一致テ无子ハナラヌ、然ルニ世上ノタノ三募リハ此改悔
文ヤ御文ノタノムト云言ヲ解スニ、只タノ三ニシテスカ
リ任ル位ノユトニ非ス、人ニ物ヲタノムヤウニシツカリト
助テ下サレトタノミカケルコト、解シ誤ルナリ、夫テハ我
祖ヤ如信上人覺如上人アタリノタノム一念ト云言

トサツハリ別ノコトニセ子ハナラヌナルホト三業方ナソ
テハ是ヲ別トスルナリ、甚ニ至テハ歎異鈔末燈鈔ノ
教示ハ去年ノ古曆三ノ如ク今頃ノ人ニ間ニ合ヌト
云ナリ、今頃テハタ、御文ノ教示ノタノムテナケレハ
ナラヌト云ナリ、マコトニ慨歎スヘキコトナリ、全体此
三業者ノ云ヤウニ、タノムト云言ヲ解スルト、祖師ノ
教化ニ異スルハ勿論、蓮師ノ教示ニモ違害スルナリ、
此義ハ下ニ至テ辨スル何レニモセヨ當流テ彌陀ヲタ
ノムト云タノニハ、上ノ三義ノ中テハ初ノ二義カ土
臺ナリ、第三義ハ自ラソコニ具ル義ナリ、此義ハ具

サナル文ヲ解スレハイヨク、分ル是テタノムト云和訓ニ付
テ解スル義ハスムナリ、次ニ具サナル語ニ付テ解ス是ニ
二、初二正義ヲ辨シ、次ニ異義ヲ破ス、初二正義ヲ辨スル
トハ、此後生御助ヶ候ヘトタノムト云ハ、一心ニ彌陀ヲタノム
其タノミヤウヲ教ヘタ御言ナリ、是彌陀ヲタノムト云ハ
餘ノ事ヲタノムノテハナヒ、助ラレヌ後生ノ一大事ヲタノ
ムノチヤト云コトテ、後生助玉ヘトタノメトノ玉フコトナ
リ、是ヲタノミ募リノ者共ハ、此言ニ執シテナンテモコチ
ラカラ助玉ヘトタノミ込ンタ覺ヘカ无レハナラヌト募ル
サテタノミ嫌ヒノ者ハ、此後生助玉ヘト云言カ耳ニカハリ

タスケテ
和語二意

テナラヌ同シ事ナラハ信スルトアレハヨヒニ助ケ玉ヘトア
ル言ニハヨハルト云、是兩方乍ラ御言ヲ知ヌナリ、此正義
ヲ辨スルニ後生助玉ヘトタノメト云言ニ二意アリ、一ニハ
本願ノ勅命ヲ眞受ニシタタノム相タヲ教ヘタ言ナリ、二
ニハ助カラレヌ後生ノ一大事ヲ彌陀ニ任セタタノミチヤ
ト云義ヲ顯シタモノナリ、先初二本願ノ勅命ヲ眞受
ニシタタノミチヤト云コトヲ知セン爲ニ後生助ケ玉ヘト
ノ玉フハイカナルコトナレハ是ハ上ニ辨スル通り一心ニ彌
陀ヲタノメノトアルハ本ト淨土論ノ一心歸命ナリト
キニ其歸命ト云ラ我祖銘文ノ釋ニ歸命ハ即釋迦弥

陀ニ尊ノ勅命ニ隨ヒ召ニカナフト申ス言ナリト、然ル歸
命ハ本願ノ勅命ニ隨ヒ任セルコトヲ歸命ト云、是カ我
祖ノ釋ナリ夫ヲ直ニ受テ御文ニ歸命ト云ハ後生助
ケ玉ヘトタノミ申ス心ナリト、是ヲ一寸見ト祖師ト蓮師
ト違ヤウニ見ユルナリ、祖師テハ本願ノ勅命ニ隨フタ歸
命ト云、蓮師ハ助玉ヘトタノムカ歸命チヤトノ玉フ違ヤ
ウナレトモ髮筋ホトモ違ハヌカ御正意ナリ、違ハヌハ
ナセナレハ此後生助玉ヘトタノムト云ハ、世間ノタノミ募
リノヤウニ向フニ合點セヌコトヲ、コチラカラタノムコトニ非
ス、今ハコチラカラ助玉ヘトタノミカケテ、向フノ如來ヘ合

點サセルコトニ非ス是ハ本ト如來ノ方カラ後生ヲ助ケ
テヤラフトヨヒカケ玉フ勅命ナリ其後生ヲ助ケフトアル
勅命ニ隨ヒ任セル相タカ後生助玉ヘナリソコテ後生御
助ケト云迄ハ本願ノ勅命ナリ彌陀ノ呼聲ナリ其後
生ヲ助ケフトアル勅命ヲ眞受ニシテタスケ玉ヘト隨ヒ
任セタカ後生タスケ玉ヘナリ然ハ是後生ノ助ルト云モ
ノハ我チカラニアラスタノンタチカラニ非ス悉皆如來ノ
丸ノ御タスケナリ其如來ノ御タスケノ勅命ニ仰セ通
リニ隨ヒ任セタタノ三チヤト云コトヲ知セン爲ニ後生
助玉ヘトノ玉フ是テ无レハ祖釋ト蓮師ノ教示カ一致

ニナラヌナリケ様ニ心得ト祖釋ニ如來ノ勅命ニ隨フ
カ歸命チヤトノ玉フ所ト又後生タスケ玉ヘトタノム
カ歸命チヤトノ玉フ蓮師ノ教示ト全ク一致ニナリ
テシマフナリ然レハ後生御タスケ候ヘトタノ三申テ
候トアルハ人ニ物ヲタノムヤウナアザトヒタノ三ニハ
非ス如來ノ方ヨリ後生ヲ助ケテヤラフトアル本願
ノ勅命ナリ夫カ眞受ニナリテ左容ナラハト勅命ノ
通りニ任セ隨フタ相タカ弥陀ヲタノム一念ナリゾ
コヲ顯フ爲ニ後生タスケ玉ヘトタノメトノ玉フナリニニ
ハ後生タスケ玉ヘトタノメトアル言ハ助ラレヌ後生ノ

一大事ヲ、弥陀ニ任セタタノ三チヤト云コトヲ顯ス義
カ第二義ナリ、此彌陀ヲタノムハタノカリソメナタノ三三
非ス、我身ヲフリカヘリ見レハ外ニ助ル縁便リハ无ヒ、
永々カ間ノ後生ノ一大事モハヤ外ニ助ケテハナヒエヘ
ニ、御文ニイツレノ法ヲ信スト云トモ、後生ノ助ルト云
ト云メクアルヘカラスト、出離ノ縁ソキタワレラナリ、
其後生ノ一大事ヲ、弥陀一佛ハ必ス救ヘシトヨヒカケ
玉フナリ、其勅命カ聞ヘテミレハ後生ノ一大事ハ外ニ
ヤリ所ハナヒ、其仕様ノナイ後生ノ一大事ノ重荷ヲ、
ズツカリト弥陀ニ打任セテタノムナリ、然ハ助カラレヌ

後生ノ一大事ヲ、弥陀ニ任セルコトヲ知セン爲ニ後生
助玉ヘトタノメトノ玉フナリ、此味ヲ知ラヌヘニ三業
者ハタノカフタノシタアノタノシタト云、已カタノ三相タ
斗リツククラフテイル、是ハタノムト云言ハ一言ニ執
シテ、後生助玉ヘト云言ノ味ヲ知ヌヘナリ、後生助
玉ヘト云言ハ後生ノ一大事ト云重荷ヲカ、エテ居
ル者、我チカラニテハ助ラヌニ依テ、彌陀ノ大願業力ニ
打任セテタノムナリ、ソコテ御文ニ機法ニ種ノ深信テ
勸メ玉フハ此譯ナリ、我身ハ惡キ徒ラ者ナリト見限
リツメテハ未來ノ後生ノ一大事ノ遣リ場ハナシ、其

ヤリ所ノナヒ後生ヲハ其儘テ助ルトアル勅命カ眞
 受ニナル其勅命ニ後生ノ重荷ヲ打任セル所ヲ今
 後生タスケ玉ヘトタノメトノ玉フナリ、是三業者ヤ意
 業募リハ後生ノ重荷ヲ知ラヌナリ、ソコテタノミブ
 リヲ吟味シテ居ナリ、已ガタノンタ位ノコトテ助ルコ
 トニ非ス、諸佛ノ御チカラニテハ中々叶ハヌトノ玉フ諸
 佛ノ御手ニアマルホトノ後生ノ重荷ヲ持テ居ナリ
 ソコテ後生ノ一大事ト云ナリ、其重荷ヲ持テ居ル者
 ヲ其マ、ナカラ助フトアル勅命ナレハ已カ足モト見テ
 居ルヤウナコトニ非ス、後生ノ一大事ヲ助ケフノ勅命

占云云講
 師トハ香月
 院師ヲ指ス
 故氏ハ香月
 院師ノ高弟
 故三辨述上
 全ク師ノ義
 ヲ傳テ補述
 ス學識ノ高
 金學寮運
 奉スル徒弟
 其公等ノ如
 是ナレト下

カ聞ルトキカ、直クニ御タスケ候ヘトタノム一念ナリ、是
 テ元レハ御慈悲カ喜ハレヌ、三業者ノヤウニタノンテ助
 ケテモロフ其カワリニ報謝ヲ喜フト云ヤウ大延々シ
 キコトニ非ス、是ハ先達テ御講師、喻ヲ以辨セラレタリ
 喻ヘハ今マテ汗ヲ流シテ重荷ヲ持テ居ル者ヲ其
 荷ヲ持テヤラト云ハレタレハ、ヤレクウレシヤト喜
 ハル、其時荷物ヲ向ヘワタス場ナリ、重荷カ元子ハ
 人ニ持テモロフウレシサハナヒ、今後生ノ一大事ト
 云重荷ノ後生ヲ持テ居ルモノヲ、其重荷ノ後生
 ヲ助テヤロフトアル呼聲ヲ聞テ信スルトキ、ヤレウレ

シヤト喜ハル、其所カ後生助玉ヘトタノ三オワリタ
所ナリ、阿弥陀如来ナレハコソ助玉フソト信スル所
カ、アヲユル後生ノ荷物ヲ打任セタトユロナリ、夫カ後
生タスケ玉ヘノ思ナリ、然レハ後生御タスケ候ヘトタ
ノムトアル改悔文ノ言、上來辨スル如ク本願ノ勅命
ヲ真受ニスルタノム相タト、助ラレヌ後生ノ一大事
ヲ打任セルタノムナリ、此ニツノ意ヲ含テ後生タ
スケ玉ヘトタノムトノ玉フコトナリ可知 已上

トモ、其中香月院圓乘院ノ兩師ハ高倉學寮ノ龍象
ナリ又威光院嗣講師ハ香月院講師ノ高弟ナリ、依テ
今三師ノ説ヲ摘出シ以テ公等ノ需ニ應スル所ナル
ノ三

明治十五年十一月十三日閣筆

明治十六年十月廿九日再版御届

同 十月刻成

定價金三拾錢

京都府平民

編輯兼
再版人

西村九郎右衛門

下京區第三十組橋町八番戶

